

広報 たかのす

閉町記念特集号



有楽町通り（昭和40年代）



米代児童公園開園式（昭和41年）



健康優良児表彰式（昭和41年）



旧米代町通り（昭和30年頃）



秋田杉の搬出作業
（七日市 昭和30年代）



秋田国体で天皇皇后両陛下を迎える町民
（鷹ノ巣駅前 昭和36年）



鷹巣小学校横町校舎（昭和30年代）



冬の町通り（昭和40年代）



旧消防署の望楼（昭和30年代）



交換手による電話交換（昭和40年代）



旧中央公民館（昭和40年代）



木炭の積み出し（七日市 昭和40年代）



綴子大太鼓
（昭和30年代）



目次

● あいさつ	02 ~ 03
● 昭和の合併	04 ~ 05
● 鷹巣町合併50年の軌跡	06 ~ 17
● グラフで見るまちの姿	18 ~ 19
● 鷹巣町を振り返って	20 ~ 29
● 鷹巣町の小中学校の歩み	30 ~ 39



閉町にあたって

鷹巣町長 岸 部 隆

新緑芽吹く春の装いとともに3月22日、いよいよ北秋田市が誕生します。その一方で鷹巣町制50年の歴史が幕を閉じようとしています。

鷹巣町は、昭和30年4月1日、当時の鷹巣町・栄村・坊沢村・七座村・沢口村の合併と、翌年9月30日の綴子村・七日市村の合併を経て今日に至るまで、半世紀にわたり新生鷹巣町として、その歴史を刻んでまいりました。この間、住民福祉の向上に努め、産業・経済・教育・文化など多くの分野において北秋田の中心的な役割を果たしてまいりました。

今日の鷹巣町の発展があります。それは、時には洋々たる前途に心躍らせながら、時には幾多の苦難を乗り越えて活躍してこられた先人諸氏をはじめとする町民の皆様のまちづくりに対する献身的なご尽力の賜物であり、その功績に対しまして衷心より敬意を表す

る次第です。

また、これまで国・県等関係機関の皆様には町政全般にわたるご指導とご支援を賜り、今日の鷹巣町へと歩みを進めることができました。特に、一大プロジェクトとなった大館能代空港の誘致にあたっては、関係機関のご支援のもと鹿角地域から能代山本地域にわたる県北一円の取組みにより、悲願の空港が平成10年に開港したことはまさに歴史の1ページとして特筆すべき出来事であります。

このように、輝かしい発展とともに歩んできた鷹巣町ではありますが、時代の変遷とともに日本の社会構造も大きく変貌を遂げ、国も地方も改革の必要に迫られている昨今、当町では鷹巣阿仁地域の4町による合併の道を選択するに至りました。

私自身、1期2年ではありましたが、町民の皆様のご指

導と心温まるご支援のお陰により、その重責を担ってまいりました。そして最後の鷹巣町長として町制に携わることができましたことを光栄に存じ上げますと同時に、鷹巣町の歴史に幕を引く役目となり、大変複雑な心境にございます。しかしながら、合併はすること自体が目的ではなく、これからがスタートであります。そういう意味でも、北秋田市の誕生には大いに期待を寄せているところであり、町民の皆様には鷹巣町に生まれ育ったことを誇りとし、融和と協調を大切に、北秋田市発展のため更なるご尽力をいただければ幸いに存じます。

結びに、鷹巣町にご厚情を賜りました全ての皆様に深甚なる感謝と御礼を申し上げますとともに、皆様のご健勝とふるさと鷹巣の弥栄を祈念し、閉町のあいさつとさせていただきます。

歴代町長



初代町長
成田 喜八

昭和30年 5月13日～
昭和42年 5月12日



2代町長
出川 禮一

昭和42年 5月13日～
平成 3年 5月12日



3代町長
岩川 徹

平成 3年 5月13日～
平成15年 5月12日



4代町長
岸部 隆

平成15年 5月13日～
平成17年 3月21日

歴代助役

成田 正彦
昭和30年 4月12日～
昭和30年 4月22日

神成 嘉雄
昭和30年 4月12日～
昭和33年 3月31日

小坂 重郎
昭和30年 4月12日～
昭和33年11月11日

萩原 秀三
昭和33年 5月 1日～
昭和37年 4月30日

成田 仁市
昭和37年 9月28日～
昭和41年 9月27日

成田 稔
昭和38年 7月 4日～
昭和42年 3月31日

藤嶋 修三
昭和43年 4月26日～
昭和51年 4月27日

畠山 喜代治
昭和51年 5月 1日～
昭和59年 4月30日

三澤 宏
昭和59年 6月27日～
昭和62年 1月16日

今野 実
昭和62年 6月24日～
平成 3年 5月12日

恵比原 脩
平成 3年 6月28日～
平成 7年 6月27日

岩谷 利男
平成 8年10月 1日～
平成15年 5月12日

恵比原 脩
平成15年 9月25日～
平成17年 3月21日

歴代収入役

長崎 文太郎
昭和30年 4月12日～
昭和38年 4月11日

笹原 一
昭和38年 6月28日～
昭和50年 6月27日

畠山 喜代治
昭和50年 6月28日～
昭和51年 4月30日

河田 英治
昭和51年 5月 1日～
昭和57年 5月24日

成田 多千雄
昭和57年 7月 1日～
平成 4年12月31日

吉田 昌弘
平成 5年 4月 1日～
平成 7年 3月31日

斎藤 和憲
平成 8年10月15日～
平成15年 7月31日

河田 弘美
平成16年 4月 1日～
平成17年 3月21日

歴代教育長

河田 太茂蔵
昭和31年10月 1日～
昭和39年 9月30日

渡辺 勝蔵
昭和39年10月 3日～
昭和49年 6月30日

高橋 茂明
昭和49年 7月 9日～
昭和57年 6月30日

中嶋 修三
昭和57年 7月 5日～
平成 2年 6月30日

藤嶋 健一
平成 2年 7月 1日～
平成 4年12月31日

佐藤 秀男
平成 5年 2月 9日～
平成 8年 9月30日

松田 孫明
平成 8年10月 8日～
平成15年 5月12日

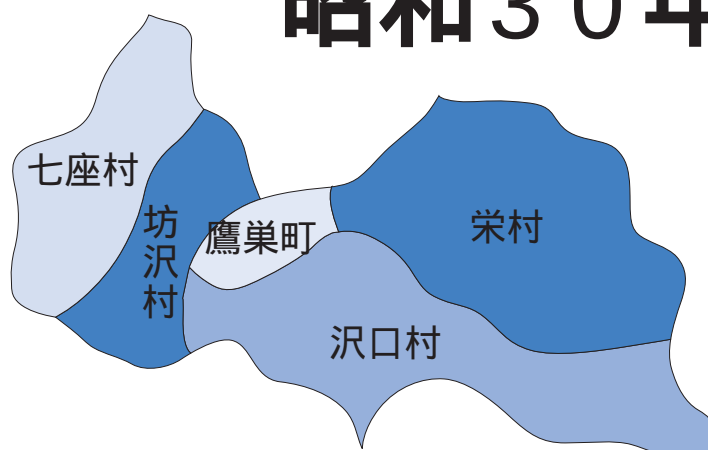
三澤 仁
平成15年 8月 1日～
平成17年 3月21日

昭和の大合併

昭和28年11月1日、町村合併促進法が施行され、地方自治体の地図はぬりかえられることになった。

県では、町村合併促進協議会を設け町村数を3分の1に、人口は8000人以下の小規模町村を合併し、町村自治体の適正化を図り、運営の合理化、能率化を推進する目的で、29年5月6日「秋田県合併計画案」を発表し、新鷹巣町発足のきっかけとなった。

昭和30年



七座村

明治22年町村制施行にともない黒沢、前山、今泉、小繋、麻生の5カ村が合併して七座村と称する。

また、羽州街道と阿仁部へ通ずる要路であったことから、水陸交通の要所として早くから開けた土地であった。

村にはきみまち阪、霊場高岩山原生林の七座山、天神神社など風光明媚な自然に恵まれていた。(いずれも二ツ井に分町)

合併直前の人口 3,476人

村長 平泉七郎

坊沢村

国道、奥羽本線、米代川が貫通していながらその恩恵は少なく、戊辰戦争の全村焼討、水害等による飢餓が村の歴史であった。

殆どを占める小作農、乏しい村有林野など村の財政は厳しかった。また、馬産、薬工品も盛んで、特産品として坊沢蓴があった。

合併直前の人口 2,577人

村長 佐藤啓喜

沢口村

戦後間もない昭和23年に沢口酪農組合では、岩手県から11頭の成牛を導入し、10年の間に100頭を超える乳牛が飼育され、北秋酪農のメッカとなった。また、養鶏も盛んに行われるなど農家の複合経営にいち早く取り組んだ村でもある。

さらに、堂ヶ岱地内の灌漑堤が、桜の名所(鷹巣中央公園)として昭和27年に秋田30景に選ばれるなど、鷹巣町と一体となった発展計画が早くから進められていた。

合併直前の人口 3,205人

村長 神成嘉雄

鷹巣町

阿仁合線の拠点であると同時に、国や県の出先機関が設置されるなど、行政・文化・経済・交通の中心で、古くから郡都として栄えた。産業は周辺の村が農林業が盛んであったので、商業と、天然秋田杉の集積、加工等木材の町としても活況を呈した。

昭和25年の大火後復興の厳しい財政にもかかわらず、都市計画事業により近代的な街づくりが進められた。

合併直前の人口 8,042人

町長 成田喜八

栄村

村財政が厳しい当時、造林事業を推進するとともに、子弟の教育にも熱心な地域であった。また、現金収入の少ない時代には、薬加工や木炭、養蚕などが盛んに行われた。

米代川沿いの肥沃な土からは、歯ざわりのよい太田ゴボウが当時の名産として近郷から注目を引いた。

合併直前の人口 1,909人

村長 小坂重郎

昭和31年

綴子村

駅馬役所本陣が設けられ、羽州街道の要所として栄えた村であり、古くから良馬をはじめ役牛などを産していた。

また、稲作の反収増産にもめざました土地であり、戦後はいち早く耕地整理を実施するなど、米代川からの用水確保で377haの水田を潤した。

綴子沢、糠沢沢は天然秋田杉にも恵まれ、村をあげて造林事業に取り組み、財政的に豊かな村であった。

合併直前の人口 4,846人

村長 岩谷勇八

七日市村

天然秋田杉の主産地として、全国的にも有名であり、柾木羽、樽木など木産を中心とした産業のほか、良質木炭、無煙炭、鉱石などを算出し経済的にも豊かな村であったが、村の面積が広大なため小学校3校、中学校2校が設置されるなど、教育を充実するために村財政の出費もかさむところであった。

また、一時期は、郡立農林学校、営林署の前身が設置されたこともある。

合併直前の人口 3,993人

村長 千葉栄太郎



平成17年

鷹巣町

合併直前の人口と世帯

21,369人

7,649世帯

町長 岸部 陸

鷹巣町

合川町

合併直前の人口と世帯

7,872人

2,974世帯

町長 佐藤修助

合川町

森吉町

阿仁町

阿仁町

合併直前の人口と世帯

4,190人

1,648世帯

町長 浜田 章

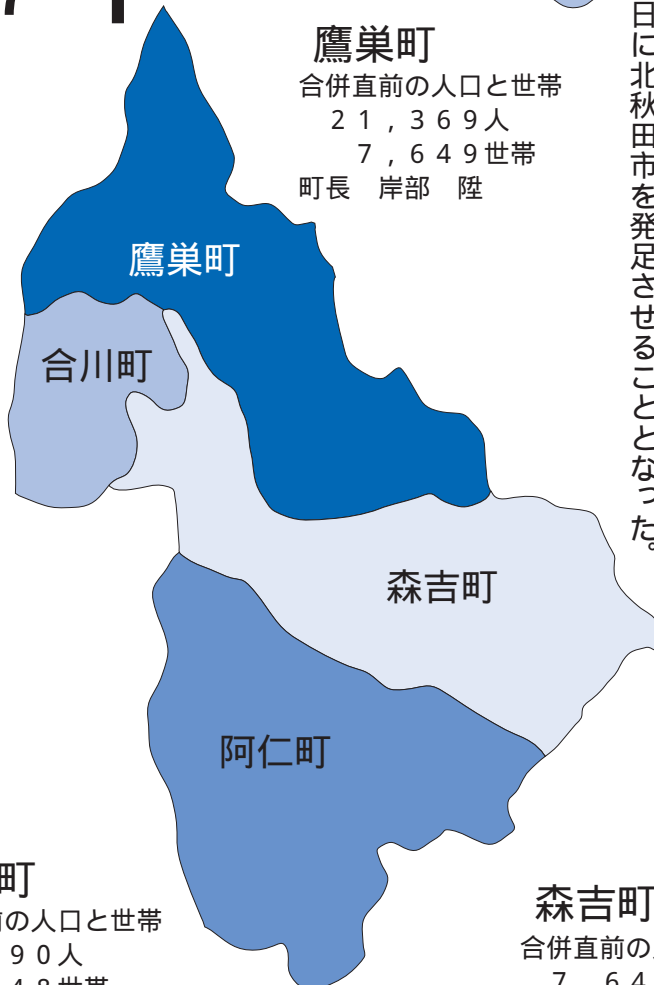
森吉町

合併直前の人口と世帯

7,643人

2,652世帯

町長 近藤健一郎



合併特例法は、昭和40年に制定され、10年ごとに延長されてきたが、平成11年に地方分権一括法により改正が行われたことから、全国的に合併への取り組みが進んだ。
平成16年2月9日、鷹巣町・合川町・森吉町・阿仁町の4町も法定協議会を設置し、平成17年3月22日に北秋田市を発足させることとなった。

平成の大合併

鷹巣町合併50年の軌跡

1955

昭和30年

- 4月1日 鷹巣町、坊沢村、栄村、沢口村、七座村の5力町村が合併して「新鷹巣町」が誕生 世帯数3300世帯、人口2万116人
- 8日 新町初議会開催（議員数77人）
- 5月5日 町広報第1号を発刊
- 10月13日 町長選挙、成田喜八氏当選
- 10月1日 鷹巣町小繋、麻生、下田平地区を鷹巣町から分離して二ツ井町に編入
- 国勢調査実施、世帯数4864世帯、人口2万7663人（世帯、人口とも綴子・七日市両村を加算）
- 11月31日 綴子小学校糠沢分校新築落成
- 11月3日 栄小・中学校新校舎落成式

1956

昭和31年

- 1月28日 町議会議員選挙区および定数条例を定める。鷹巣13人、栄3人、坊沢3人、七座3人、沢口4人、計26人
- 3月25日 合併後初の5小選挙区制による町議会議員選挙を実施
- 4月1日 坊沢小学校観音堂岱分校を緑ヶ丘小学校に、沢口小学校坊山分校を坊山小学校と改称して独立校となる
- 7月23日 豪雨により小猿部川が大洪水、流失埋没田畑97haほかに農業用施設が大きな被害をつける
- 9月30日 綴子村、七日市村が鷹巣町に編入合併



▲鷹巣中学校が全県少年野球大会で初優勝。プラスバンドを先頭にトラック2台で町内をパレード。統合中になる最後の年であった（S32年）



▲一部地区の分町問題など、さまざまな困難を乗り越えながら実現した昭和の合併（S32年）

1957

昭和32年

- 11月10日 世帯数4840世帯、人口2万8047人
- 第79回秋田県種苗交換会を開催、期間中25万人の人出でにぎわった（16日）

1958

昭和33年

- 4月1日 竜森地区の一部が森吉町に分町を希望したが、住民投票の結果、分町は成立しなかった
- 8月15日 鷹巣中学校が全県少年野球大会で悲願の初優勝
- 9月12日 鷹巣気象通報所開設
- 11月23日 記念グラウンドで町民運動会を開催
- 11月28日 鷹巣統合中学校第1期工事起工式

1959

昭和34年

- 1月1日 新町初の名刺交換会開催
- 1月22日 鷹巣小学校で牛乳給食開始
- 3月17日 中学校卒業就職生徒壮行会
- 4月30日 町長選挙
- 6月22日 第16回国体に備えて準備委員会が発足
- 11月30日 ト舗装
- 米代町通り（190m）をコンクリート舗装
- 9月10日 鷹巣中、七座中、坊沢中、綴子中、栄中と沢口中を統合し「鷹巣中学校」を創立
- 5月3日 慰霊碑を建設
- 9月10日 鷹巣中、七座中、坊沢中、綴子中、栄中と沢口中を統合し「鷹巣中学校」を創立
- 4月30日 秋田県立鷹巣農林高等学校定時制課程七日市分校廃止
- 2月11日 坊沢小学校でパン食と脱脂牛乳給食開始

1962

1961

1960

昭和35年

8月21日 阿仁合線延長工事（阿仁合・比立内間）起工式
 10月23日 鷹ノ巣駅舎新築落成式
 11月2日 第1回鷹巣町産業祭開催（～4日）

2月19日 綴子内館文庫が県文化財指定

3月26日 町村合併後初の大選挙区による町議会議員選挙

4月1日 七日市中学校と沢口中学校の学区再編統合により、鷹巣南中学校を創立
 鷹巣中学校が統合して最初の入学式を行う

4日 国体鷹巣町実行委員会発足

25日 栄小学校で完全給食を実施

9月10日 鷹巣町商工会が発足
 10月1日 国勢調査実施、世帯数5441世帯、人口2万7240人

昭和36年

4月1日 綴子・七日市両森林組合が合併し、「鷹巣町森林組合」が発足

7月5日 南鷹巣に北秋田郡家畜共済診療所が完成

10月2日 国体旗リレーが町内を通過

9日 第16回国民体育大会バレーボール競技（高校男女、教員）が鷹巣を会場に開催（～12日）

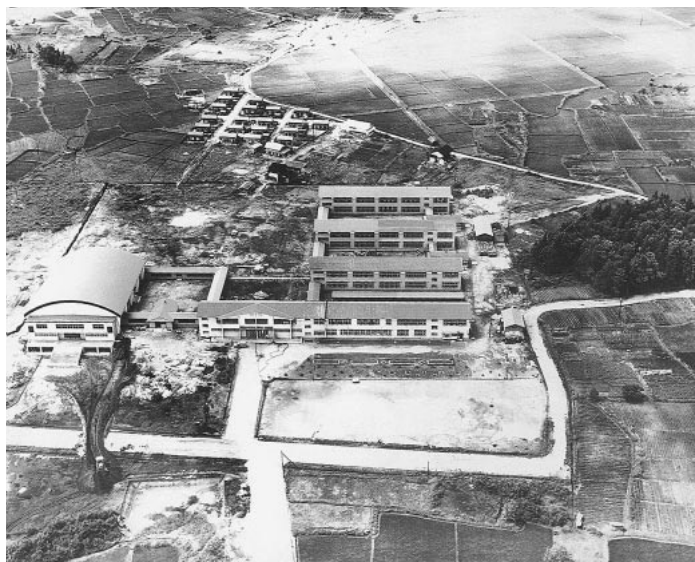
11日 天皇、皇后両陛下が国体バレーボール競技ご観覧のため御来町。町内小学校3年生以上の児童生徒が両陛下を御奉迎

昭和37年



▲秋田国体では、バレーボール会場として天皇、皇后両陛下をお迎えするなど、町は国体一色となった（S36年）

▶ 試合は大館鳳鳴対藤沢商



◀新築第1期工事が終了した昭和35年頃の統合中学校。当時は生徒数1,575人で県内第2位の大規模校であった

1964

1963

昭和38年

4月1日 町の保健補導員制度が発足
 11月 県立鷹巣職業訓練所開所
 10月3日 北秋中央病院新築落成式
 15日 広報たかのすが月2回の発行となる
 20日 旧記念グラウンド跡地を公売入札
 11月22日 鷹巣営林署庁舎落成

1月30日 第1回町民スキー大会を深閑スキー場で開催（39年から薬師山スキー場）

4月10日 鷹巣中学校野球場工事中に、平安朝期の埋没家屋（胡桃館遺跡）を発見

町長選挙

5月18日 鷹巣小学校に本町初めての鉄筋3階建校舎が完成

6月10日 坊沢小学校竣工式

7月25日 鷹巣神社例祭を7月11日から変更

9月8日 第1回町民体育祭開催

11月25日 第1回河田杯マラソン（第6回から独立開催）

全国学校植林コンクールで竜森小が特選校となり、文部・農林両大臣賞を受賞

昭和39年

3月26日 町議会議員選挙

4月1日 糠沢分校を廃止、綴子小学校に統合

5月8日 3堰合同頭首工完成導水式

7月2日 日赤社費・共同募金増強福祉大会

8月26日 綴子小学校新築工事着工

9月21日 東京オリンピックの聖火リレーが町を通過

10月16日 第1回鷹巣町教育祭開催（～17日）

昭和40年

2月5日 鷹巣、森吉、合川、上小阿仁4力町
村衛生施設組合発足

5月19日 第1回町内小学校交歓陸上競技大会

7月15日 町が文部省から社会体育モデル町に
指定される

9月25日 商工会館(当時)新築落成

10月1日 国勢調査実施、世帯数5953世帯、
人口2万6244人

11月1日 役場の6支所(七座・坊沢・綴子・
栄・沢口・七日市)を廃止し本庁に
統合

23日 第1回町民駅伝大会

昭和41年

1月1日 名刺交換会を中止

10日 鷹巣町老人クラブ連合会結成

30日 第1回鷹巣町連合青年会模擬議事を
開催(33人)

3月31日 竜森中学校を廃止して鷹巣南中学校
に統合

4月1日 誘致企業第1号として「楽屋被服」が、
綴子小旧校舎を工場として操業開始

5月5日 米代運動公園(児童遊園地)開園式

7日 綴子小学校新築落成式

9月7日 鷹巣陸橋が完成(全長320m)

30日 町村合併10周年記念式典

12月3日 秋北バス鷹巣営業所が新築営業開始

12月 誘致企業第2号ハリマヤ運動用品株
式会社鷹巣工場操業開始

20日 銀座通り商店街のアーケードが完成

昭和42年



▲ピンポン玉大の降雹により窓ガラスの3分の1が割れた旧沢口小。田植後の水田も泥海と化した(S42年)



▲旧、新鷹巣町で町長として尽力された成田喜八氏と、新たに選出された出川町長(当時)が事務引継を行った(S42年)



▲合併10周年記念式典で成田喜八町長は「この10年間に基礎にさらに町民各位の協力を願い明日への町勢発展に努力したい」とあいさつ(S41年)

3月28日 鷹巣町外4力町村衛生施設組合米代
流域衛生センター落成式

4月1日 秋田県立鷹巣農林高等学校が、普通
科と家政科を新設の鷹巣高等学校に
分離し、単独の実業高等学校となる

13日 秋田県立鷹巣高等学校創立

28日 西部農業協同組合(坊沢、前山、七
座が合併)が発足

6月5日 町長・町議会議員補欠選挙、出川禮
一氏当選

12月13日 降雹で旧沢口小の窓ガラス800枚
破損、農作物にも被害が及ぶ

鷹巣町青少年健全育成世話人会が発足

昭和43年

3月6日 名誉町民第1号、成田喜八氏伝達式

3月27日 町議会議員選挙

4月1日 鷹巣小学区の新田中地区を綴子小学
区に改編

5月31日 米代川鷹巣橋に歩道橋が完成

6月3日 ゴミ収集を町直営で開始

11月2日 鷹巣町教育と文化の祭典を開催

12月1日 向黒沢と蟹沢に鉾津流送パイプを利
用した歩道橋が完成

鷹巣町公民館付属図書館開館式

20日 町営薬師山スキー場にロープ棟と鉄
骨ヒュッテ完成

昭和44年

昭和44年

3月18日 七座小学校が飛火で全焼

4月1日 七日市、沢口、坊山小学校を廃止し、
南小学校、中央小学校創立

町費で全妊婦に対し栄養食品(牛乳
またはミルク)を無償支給

1971

1970

昭和45年

6月12日 役場新庁舎新築工事起工式
8月19日 大相撲鷹巣場所を米代川原で開催
30日 鷹巣町の教育100年を発刊
10月20日 鷹巣小学校で完全給食を実施
11月1日 11月を町長に手紙を出す運動期間とする
11月2日 第1回鷹巣町教育文化祭開催（第7回から文化祭と改称）
12月25日 小猿部川の川口橋が完成

2月18日 役場庁舎新築落成式

4月1日 竜森小学校と葛黒小学校が名目統合

7月1日 栄小学校を東小学校に校名変更

8月15日 成人式を夏に変更（服装の簡素化）

10月1日 国勢調査実施、世帯数6362世帯、人口2万5390人

6日 町議会で坊沢小学校と七座小学校を

統合して西小学校設置を決定

12月19日 北部学校給食センター完成（23日から鷹巣中、綴子小、西小で給食開始）

27日 町営葬祭場（当時）完成

昭和46年

4月1日 坊沢、七座、黒沢、緑ヶ丘小学校を

統合し西小学校が発足

25日 町長・町議会議員補欠選挙

5月31日 中込に北秋田総合庁舎、鷹巣保健所

の新庁舎が完成

10月1日 奥羽本線が蒸気機関車とお別れ、完

全無煙化運転となる

27日 上水道工事起工式が川口地内現地で

始まる

11月30日 東又、西又集落10戸が「集落再編促

▶ 世紀の祭典、札幌オリンピックに向かう聖火が、町内7区間を91名のリレー隊、5区間をトーチ車でリレー（S47年）

▼ 鷹巣阿仁の大動脈、阿仁合線を走ったSLの勇姿。昭和49年に現役を退き、児童公園に設置された



▶ 昭和44年3月、卒業式を前に七座小学校が火事で焼失。昭和46年に西小が新築されるまで、坊沢小を借りての学校生活となった



1974

1973

1972

昭和48年

2月10日 竜森小学校新築落成
20日 西小学校新築落成
4月25日 老人憩いの家「青葉荘」完成
9月30日 浄運寺テニスコート開設50周年記念式典（後に転用廃止となり墓地となる）
10月31日 門ヶ沢部落9戸が旧葛黒小学校跡地に集団移転
11月22日 鷹巣阿仁広域圏民体育館（鷹巣体育館）竣工式
7月11日 南小学校新築落成
19日 中央小学校新築落成
5月1日 町上水道事業供用開始
7月11日 南小学校新築落成
4月1日 南部給食センターが完成（中央小、南小、鷹巣南中、竜森小で給食開始）
3月29日 町議会議員選挙
28日 鷹巣合川消防本部が完成（現産業会館）
1月18日 冬季札幌オリンピックの聖火リレーが本町を通過

昭和47年

進条例「第1号の適用を受け糠沢に集団移転」

昭和49年

2月27日 記者会見で町章、町民歌を発表
3月25日 阿仁合線で最後のSL運転、県内より姿消す
4月1日 小学校新入児童にランドセルを無償支給、中学校新入生徒は鞆を統一
6月1日 鷹巣阿仁広域圏民会館完成
7月30日 綴子小学校創立100周年記念式典
9月4日 南小学校創立100周年記念式典

1976

1975

昭和50年

27日 糠沢自治会保存の円空作「木造阿弥陀如来座像」が県文化財に指定
 10月15日 阿仁合線を走っていた蒸気機関車が児童公園に永久展示
 24日 鷹巣小学校創立100周年記念式典
 11月7日 第97回秋田県種苗交換会開催（13日）54万5000人の人出で賑わう

昭和51年

3月9日 第1回全町子供会風揚げ大会
 15日 鷹巣小100周年記念タイムカプセル収納塔並びに記念像除幕式
 4月27日 町長・町議会議員補欠選挙
 6月28日 中央公園に町営鷹巣球場が完成
 7月28日 綴子上町に直径3・3mの日本一の大太鼓が完成
 8月20日 集中豪雨で小猿部川などが決壊、明利又で家屋流失、全壊など被災者1660人、被害総額22億円を超す
 9月12日 中央小学校創立100周年記念式典
 10月1日 国勢調査実施、世帯数6668世帯、人口2万4742人
 11月17日 鷹巣町農業協同組合が新庁舎に移転
 駅前通り商店街アーケード竣工式

1月8日 名誉町民成田喜八氏の町民葬
 3月26日 町議会議員選挙 今回から定数を4人減で26人を選出
 3月31日 町民歌LP盤が完成
 5月19日 中国残留孤児・高井哲子さんが里帰り、31年ぶりに親子の対面
 31日 綴子下町で直径3・47mの大太鼓を新調披露



▲大晦日に行われた「ぱりじょっこ」米代町を境に東西に分れ、東が勝てば家内安全、西が勝てば商売繁盛（S54年）

▶小猿部橋上流の堤防が決壊し、瞬間に激流が入り込む（写真：七日市駐在所周辺）（S50年）



▼多くの家族連れや若者で賑わった歩行者天国（S51年）



1979

1978

1977

昭和52年

8月15日 銀座通りで「歩行者天国」

昭和53年

2月5日 湯の岱で温泉ボーリングが始まる
 6月15日 新観光秋田30景に中央公園が入選
 7月4日 湯の岱温泉ボーリングの結果、38度
 毎分250リットル噴出の温泉脈をあてる
 10日 北萬醤油工場全焼、鷹巣保育園一部類焼
 8月11日 今泉大堤一帯が緑地環境保全地域に指定される
 9月13日 竜森小学校創立100周年記念式典
 29日 勤労者プールが完成
 10月23日 西小学校創立100周年
 25日 鷹巣南中学校創立30周年記念式典

昭和54年

1月1日 第1回ぱりじょっこ大会が始まる
 8日 旧消防署庁舎を改築し、産業会館としてオープン
 3月20日 綴子小学校有合分校が97年の歴史をもって廃校（卒業生507人）

12月24日 湯の岱温泉湯治場が営業開始
 10月31日 墓地公園開眼式
 10月1日 町議会全員協議会で審議了承
 を建立（町民憲章は昭和49年3月に念事業として、役場前に「町民憲章碑」を建立）

1981

1980

昭和55年

24日 町連合青年会結成20周年記念式典
町長選挙
4月21日 東小学校創立100周年記念式典
6月25日 綴子上町で直径3・45m、胴の長さ
8月9日 4m、重さ3tを越す日本一大太鼓
を新調披露

1月8日 石倉山スキー場がオープン
3月19日 町議会議員選挙
4月24日 藤株遺跡で本格的な発掘調査開始
5月8日 栄地区の鞍山風穴が県自然環境保全
地域に指定

9月25日 県内初の全天候型陸上競技場が完成
9月4日 稲の不稔、登熟不良などの被害が増え、
稲作冷害対策指導班を設置（同月11
日に対策本部に切り替え）
9月8日 町の先覚者「成田直衛翁胸像」の除
幕式を児童公園で開催
10月1日 国勢調査実施、世帯数7021世帯、
人口2万5065人
11月12日 寺田服装専門学校創立30周年記念式典
文化祭と共に第1回産業祭開催
12月8日 鷹巣女子専門学校創立30周年記念式典
12月5日 平安時代後期の胡桃館遺跡が県文化
財に指定

昭和56年

3月4日 町商工会青年部創立15周年記念式典
8月1日 東京都体育館で行われた全国家庭ハレ
ボール大会で鷹巣愛好会が全国制覇
9月1日 小中学校で週2回の炊飯給食が開始
5日 第1回発明工夫展開催（6日）
10月1日 旧町の一部を11町143街区に改め



▲明治16年に巡回授業所として開設され、昭和46年に西小に統合、廃校となった緑ヶ丘小跡地に100周年記念碑が建てられた（S57年）

▼昭和55年に地域ぐるみ米消費拡大特別対策事業の指定を受け、モデル給食の試食会を行う鷹小の児童（S55年）



▲昭和4年に初めて発掘調査を試み、住居跡や土器石器、遮光器土偶などが発見された藤株遺跡。昭和55年に本格的な発掘調査が行われた

1984

1983

1982

昭和57年

11月2日 鷹巣地域産業青年部設立
る住居表示を実施

1月1日 第1回元旦マラソン大会開催
4月1日 小森比内線が国道285号線に昇格
町議会にて鷹巣小学校の用地を決定
5月7日 緑ヶ丘担い手センター完成
6月1日 鷹巣阿仁総合卸売市場集荷センター
が国道7号線にオープン
8月22日 同窓生350人が廃校になった緑ヶ
丘小学校の創立100周年を祝う
9月30日 陣場岱農免農道完成
11月22日 田子ヶ沢セリ集荷場完成

昭和58年

1月28日 40年ぶりに雪中田植え行事が復活
4月1日 鷹巣気象通報所が無入化
町長選挙
5月7日 第1回鷹巣町植樹祭を開催
26日 正午前マグニチュード7・7（震度
5++強震）の日本海中部地震発生、
土蔵や石塀の倒壊、水道管破損、ガ
ケ崩れや道路・地面の亀裂で約2億
円の被害
8月12日 第12回東北中学校野球大会で鷹巣中
が初優勝
11月20日 鷹巣小学校新築落成
12月1日 鷹巣町町史編纂委員会発足
町内初の盲人信号機を駅前設置

昭和59年

1月15日 第1回薬師山学童クロスカントリースキー選手権大会開催

3月28日 町議会議員選挙
8月1日 全国高校総合体育大会バレーボール
競技兼全日本バレーボール高校女子
選手権大会開催（5日）

8月18日 町漁協主催の第1回アユ祭り開催
10月22日 本町出身の直木賞作家・渡辺喜恵子
原作の「みちのく子供風土記」がク
ランクイン（61年に撮影中止）

29日

鷹角線が廃止対象路線となったが、
第3セクターで営業することになり、
秋田内陸縦貫鉄道株式会社を設立

昭和60年

1月21日

大野台の空港開発を中心とした「鷹巣・
阿仁地域の開発を求めて」をテーマ
にシンポジウム開催

6月2日

第1回鷹巣町ふるさと踊りと餅っこ
まつり開催

28日

鷹巣町町村合併30周年並びに町制施
行85周年記念式典
大相撲鷹巣場所が開催

8月17日
10月1日

国勢調査実施、世帯数7026世帯、
人口2万4624人

昭和61年

2月20日

鷹巣農林高校定時制課程が38年の歴
史をもつて閉校（卒業生402人）

3月31日

鷹巣町史「資料編」を発行
鷹角線の路線名を「秋田内陸線」（秋
田内陸縦貫鉄道）に決定

7月9日

鷹巣南中学校が新築落成

8月18日

敬老式対象年齢を本年から2年に1
歳づつ引き上げ、9年後に75歳以上
とする

▼鷹巣町に新しい伝統とふるさと文化を創
ろうと行われた「ふるさと踊りと餅っこま
つり」。約1万人の人出で賑わう（S60年）



◀みちのく子供風土記の
ロケには、多数の町民エ
キストラも参加し、大正
末期の鷹巣町を再現（S
59年）

▶沿線住民の夢と希望
を乗せ、国鉄から民営
鉄道となった秋田内陸
線が開業（S61年）



23日

綴子下町で3・71mの日本一の太
鼓を制作

10月27日

秋田内陸線の「鷹巣駅舎」竣工式

31日

52年の歴史をもつて阿仁合線が開業

11月1日

秋田内陸線開業

昭和62年

1月31日

鷹ノ巣駅にオレンジカード自動発券
器設置

2月31日

鷹巣町史「資料編」を発行

3月30日

綴子地区の羽州街道「大堤一里塚」
が県文化財に指定

4月26日

町長選挙

9月13日

浄運寺の鐘楼に43年ぶりの梵鐘

11月15日

鷹巣南中学校創立40周年
銀座通り商店街アーケード及びカラ
舗装（愛称ジョイプロムナード）

昭和63年

3月10日

鷹巣の女性の歴史「鷹巣町婦人会史」
が出版

27日

町議会議員選挙 今回から定数を2
人減で24人を選出

4月31日

鷹巣町史「本編第1・2巻」発行

5月1日

鷹巣阿仁広域交流センター竣工式
米代河川緑地公園の多目的広場とソ
フトボール場が完成

8月7日

第1回全日本レディースアユ釣り選
手権大会開催

11月19日

鷹巣南中学校創立30周年記念式典

平成元年

1月7日

昭和天皇崩御（役場の弔意記帳書に
1353人が記帳）

1991

1990

平成2年

8日 年号が「昭和」から「平成」にかわる
 2月4日 大喪の礼で休日
 2月28日 大太鼓の館起工式
 4月1日 秋田内陸線全線開業
 県北空港の建設予定候補地として、「大野台中屋敷地域に」と県知事が発表
 6月17日 綴子下町の大太鼓ギネス認定証伝達式、のぼりが日本一から世界一に
 8月17日 町の花と鳥に「ひまわり」と「鷹」が決定
 26日 第1回ホークスサミットが東京都三鷹市で開催
 10月6日 大太鼓の館竣工式
 11月26日 県北空港早期実現総決起集会

4月1日 綴子、七日市、米の3農協が合併し新たな「す農協スタート」

9日 県北空港の正式名称が「大館能代空港」に決定

5月2日 鷹巣阿仁清掃センター竣工式

23日 大館能代空港期成同盟会で33万8000人の署名簿を携えて運輸大臣に陳情

10月1日 国勢調査実施、世帯数7090世帯、人口2万3628人

平成3年

4月21日 町長選挙、岩川徹氏当選
 5月2日 たかのす風土館がオープン
 8月17日 本町出身の直木賞作家、渡辺喜恵子さん原作の「みちのく子供風土記」上演
 9月28日 台風19号が鷹巣町を直撃。住家80棟全半壊、停電、断水等、被害総額は



▲空港の閣議決定を祝し、ちょうちんを持つての祝賀パレード（H3年）



◀平成3年9月、台風19号が鷹巣町を直撃。断水となった綴子、緑ヶ丘など13地区には給水車が出動。家屋にも大きな被害



1992

平成4年

11月17日 約80億円にのぼる「たかのす賛歌」発表会
 29日 大館能代空港が第6次空港整備5カ年計画への組み入れ閣議決定
 12月8日 フライト預金が73億4100万円
 大館能代空港を祝う鷹巣町民のつどい

1月22日 鷹巣町青果物集荷センター竣工

3月29日 町議会議員選挙

7月12日 綴子上町で3・80mの日本一の大太鼓を制作（新世界一大太鼓）

8月25日 大館能代空港が待望の新規事業に格上げ。平成10年の開港を目指す

9月12日 学校週5日制が始まる

12月3日 新斎場が竣工

1993

平成5年

4月1日 大館能代空港建設事務所が設置

22日 大太鼓の里が県内初の「道の駅」に登録

5月28日 第1回町育樹祭が慶祝森林自然公園で行われる

9月6日 24時間ケア体制がスタート

11月4日 運輸省が大館能代空港建設予定地の空域で実践飛行調査開始

12月3日 東小学校新築落成

7日 大館能代空港設置に関する公聴会開催

1994

平成6年

1月18日 明利又地区に水道施設が完成
 5月29日 北欧の杜公園開園式

1997

1996

1995

6月7日 米代川流域衛生センター落成式
9月3日 町村合併40周年プレイベント「観光のまちづくりシンポジウムと太鼓フェスティバル」開催

10月21日 大館能代空港修被式と起工式

平成7年

2月1日 マイヅルテンナンショウが23件目の町指定天然記念物に指定

4月 鷹巣中学校落成記念式典

4月5日 米代児童公園にトイレ（丸太郎）が完成

23日 町長選挙

6月30日 鷹巣阿仁地域シルバー人材センター設立総会

8月11日 役場庁舎玄関に電光掲示板を設置

10月1日 国勢調査実施、世帯数7489世帯、人口2万3034人

11月15日 鷹巣町町村合併40周年記念式典

11月2日 ホークス5市町災害相互応援協定調印式

平成8年

3月24日 町議会議員選挙

4月21日 JR鷹ノ巣駅前に大太鼓広場が完成

9月20日 東小学校そばの米代川河川敷に「水辺の楽校」が開校

10月4日 ウェルフェアテクノハウス竣工式

11月18日 県が「伊勢堂岱遺跡」の保存を発表、空港アクセスルート変更を決定

平成9年

4月2日 空港アクセス道路東西線中屋敷トンネルの貫通式



▲ 合併40年を迎え、記念式典を開催（H7年）

◀ 平成10年7月待望のあきた北空港が開港

1999

1998

25日 あきた北空港ターミナルビルの起工式

9月19日 空港アクセス道路のシンボル「蟹沢大橋」の連結式

10月1日 国勢調査実施、世帯数7338世帯、人口2万1818人

8日 鷹巣高等学校創立30周年記念式典

19日 あきた北空港開港プレイベント

11月5日 鷹巣南中学校創立50周年記念式典

26日 フライトチェックのため、あきた北空港の滑走路に飛行機が初着陸

平成10年

4月2日 秋田県埋蔵文化財センター秋田北分室開所

3日 北部学校給食センターオープン式典

6月14日 あきた北空港開港記念イベント

24日 あきた北空港アクセス道路東西線開通式

7月18日 あきた北空港開港

8月6日 日本ジャンボリーにご臨席された皇太子殿下があきた北空港から御帰京

9月12日 鷹巣中学校創立40周年記念式典

10月9日 第5回全国在宅ケアサミット開催

17日 全国から農業の鉄人を招いてアグリピック98開催

平成11年

3月10日 地域振興券を交付（対象者6200人、総額1億2000万円）

4月10日 在宅複合型施設「ケアタウンたかのす」開所

10月17日 東小学校創立120周年記念式典

11月1日 あきた北空港羽田便が2便化決定

2003	2002	2001	2000
平成15年 11月6日 市町村合併座談会（～2月21日まで） 8月5日 住民基本台帳ネットワーク開始 5月23日 鷹巣町合併ケース検討委員会設置 4月25日 寺田秋田県知事による「市町村合併トクイン鷹巣町」開催 1月18日 大館公共職業安定所鷹巣出張所（ハローワーク鷹巣）庁舎落成式	平成14年 11月23日 遊園地ドリームワールド開園 10月14日 西小学校統合30周年記念式典 5月31日 鷹巣阿仁地域シルバー人材センター創立5周年記念式典 4月5日 歩行者等支援情報通信システムが運用開始 1月29日 伊勢堂岱遺跡が文部科学大臣より国指定史跡の指定を受ける	平成13年 11月17日 JR鷹ノ巣駅開業100周年 7日 国の文化財保護審議会が伊勢堂岱遺跡を国史跡に指定するよう文部大臣に答申	平成12年 2月16日 鷹巣町女性議会開催 3月16日 リサイクルセンター完成 26日 町議会議員選挙 4月9日 大太鼓の館入館者が50万人を突破 7月1日 あきた北空港羽田便が通年2便体制 10月1日 国勢調査実施、世帯数7338世帯、人口2万1818人



▲第6回法定協にて新市名称が決定。応募総数1,364件（H16年）

▲複数の環状列石などが出土し、その重要さから国指定史跡の指定を受けた伊勢堂岱遺跡（H13年）

◀寺田秋田県知事を交え、4町の結束を表現した合併調印式（H16年）

2005	2004
平成17年 12月20日 「北秋田市」合併決定書交付式 11月14日 子ども議会開催 11月17日 総務大臣の告示により「北秋田市」誕生が正式決定 3月14日 鷹巣町制誕生から50年の歴史をもつて閉町 18日 鷹巣町役場閉庁式 22日 北秋田市誕生 世帯数1万4923世帯、人口4万1074人	平成16年 2月27日 市町村合併に関する町民意識調査（～3月10日） 4月27日 町長選挙、岸部隆氏当選 6月23日 鷹巣町、合川町、森吉町、阿仁町4町で第1回鷹巣阿仁地域合併検討準備会が発足 9月30日 鷹巣阿仁地域任意合併協議会発足 11月19日 あきた北空港アクセス道路南北線川口工区開通式 1月16日 広報たかのす通巻1000号 2月9日 鷹巣阿仁地域合併協議会発足 3月28日 町議会議員選挙 6月2日 新市の名称が「北秋田市」に決定 7月23日 米代児童公園リニューアルオープン 8月15日 鷹巣小学校100周年記念事業としてタイムカプセルを開封 10月17日 鷹巣小、綴子小、南小学校創立130周年 19日 合併調印式 22日 あきた北空港の利用者が100万人を達成

～合併の頃と平成～

合併の頃の
町並みを見ると、
昭和25年の鷹巣の
大火による都市計画
（昭和25年～昭和32年）
も順調に進み、最終段階で
ある米代町から舟見町に
かけての道路なども完成
に近づいていることがわ
かります。

現在のたかのす風土館
周辺にあるのは、旧鷹巣営
林署の貯木場。林業や製材
業が盛んだった頃で、伐採
された秋田杉がうずたか
く積まれていました。

あけぼの町や中岱
には一面の美田
が広がってい
ました。

昭和31年頃

横にごらんください

空から見た町並み



平成5年

グラフで見るまちの姿

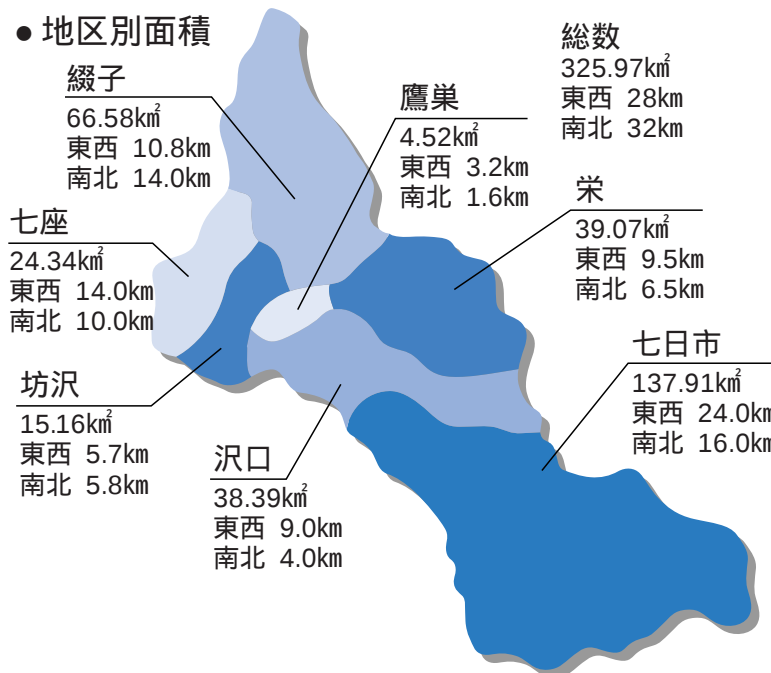
(平成12年国勢調査等から)

本町は、昭和30年に鷹巣・栄・七座・坊沢・沢口の5カ町村が合併、31年に綴子・七日市が編入合併して現在の鷹巣町となっています。

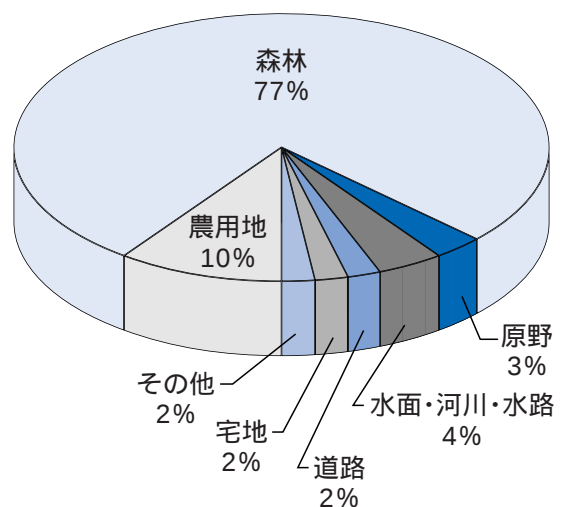
町の位置は、秋田県の北部、北秋田郡のほぼ中央で、東西28km、南北32kmで南北に長く、その面積は325.97km²で県内7番目です。

これまでの町の土地と気象・人口と世帯数・米の作付け面積と収穫量・産業(大分類)事業所数と従事者数・財政一般会計歳入・歳出決算の推移をグラフで見てください。

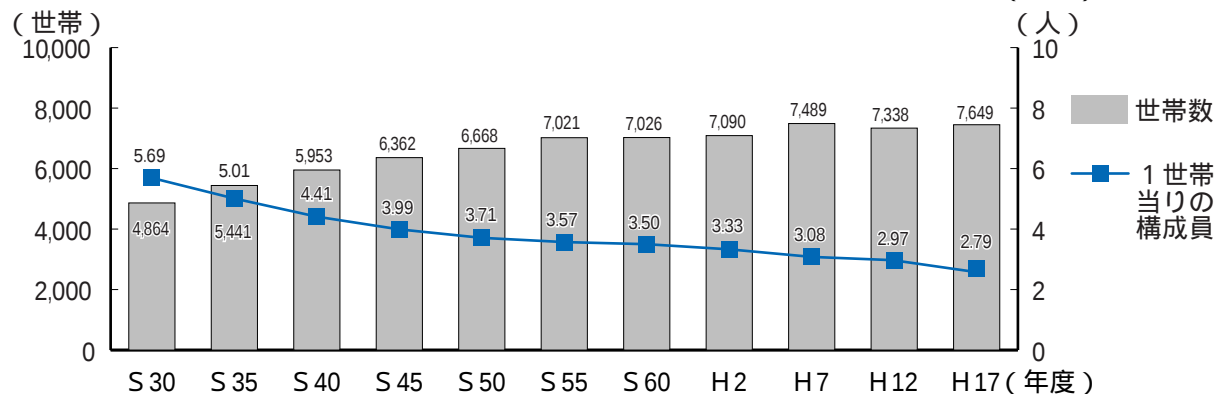
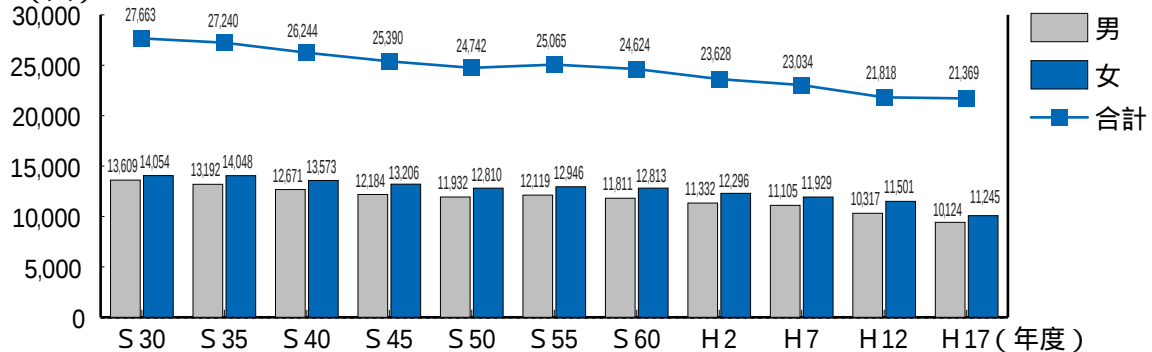
●地区別面積



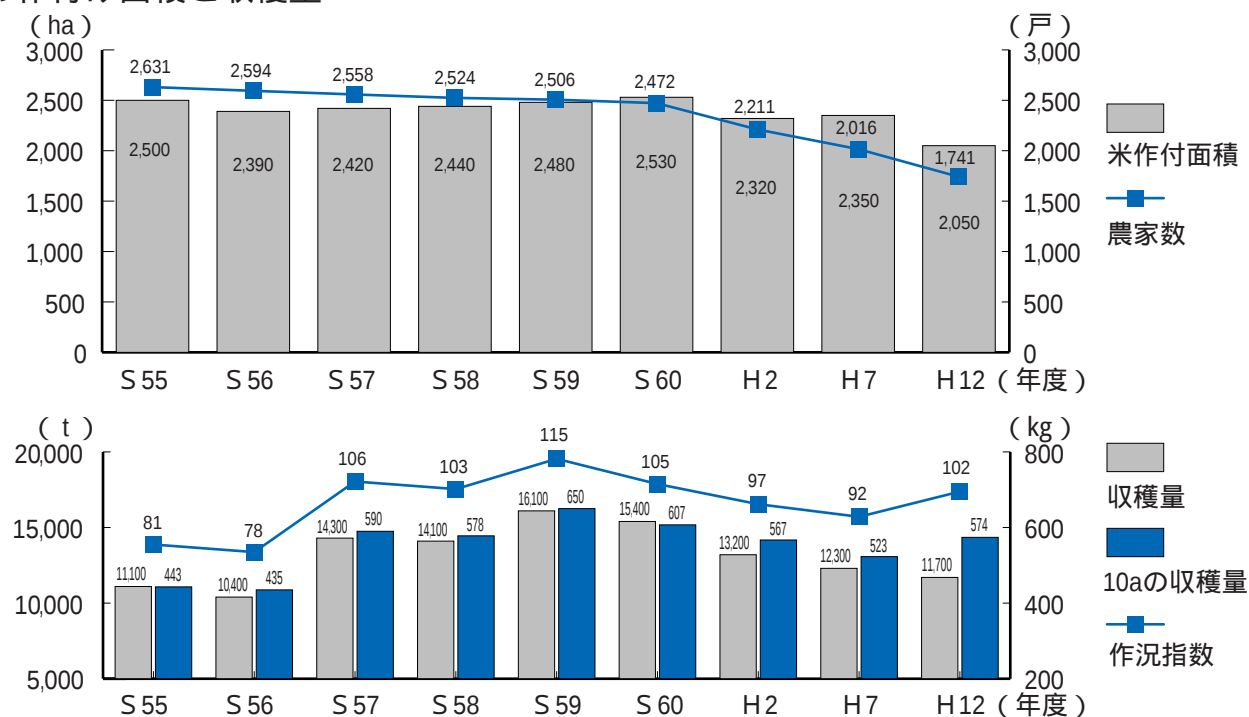
●土地の利用状況



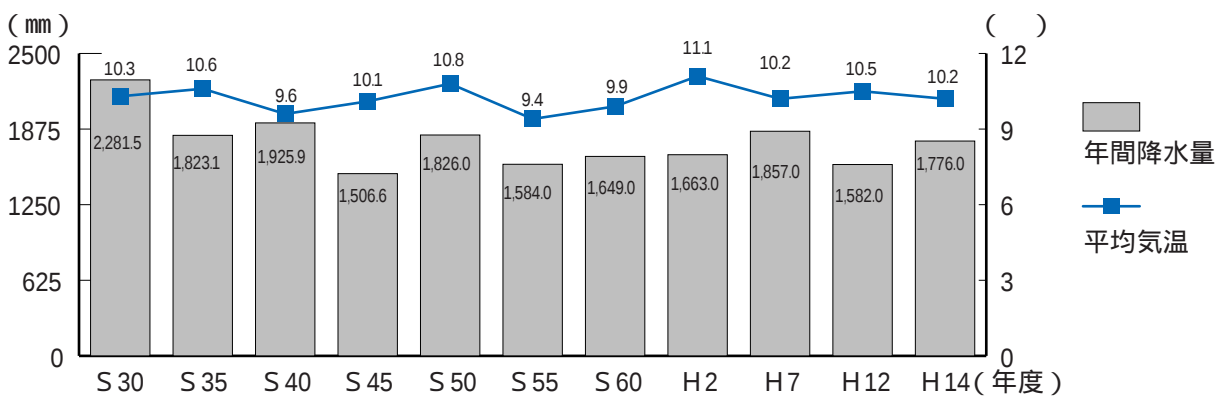
●人口 (人)



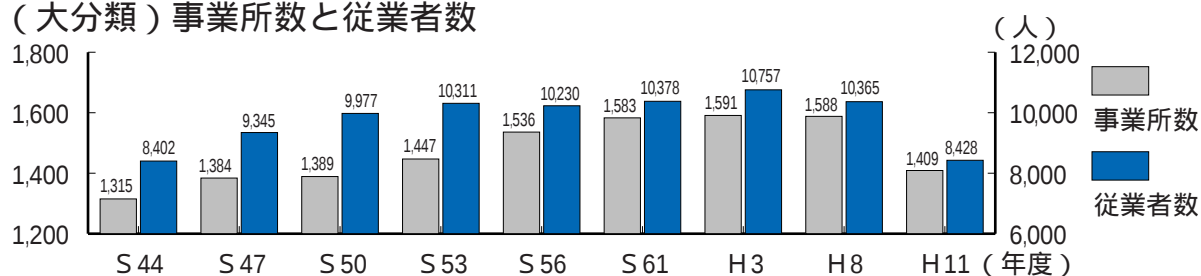
● 米の作付け面積と収穫量



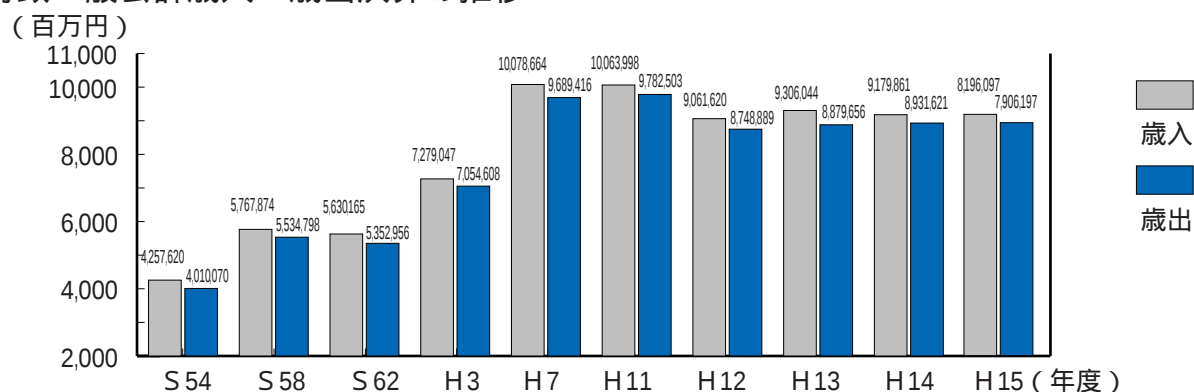
● 気象 (mm)



● 産業（大分類）事業所数と従業者数



● 財政一般会計歳入・歳出決算の推移



鷹巣町を 振り返って

合併以来の50年間には、さまざまな出来事がありました。そして、その時々のお思いは人それぞれです。「広報たかのす」最終号にあたり、町民の皆さんと町出身の方々から、わたしたちのふるさと「鷹巣」にまつわる思い出やエピソード、また「北秋田市」への期待などを綴っていただきましたのでご紹介します。



昭和の合併を思い出して

簾内 勲
今泉

来る3月22日より北秋田市となります。事を皆様と共に喜び合いたいと思います。顧みれば50年前の鷹巣を中心とした合併が思い出されます。

この時七座村の小繋、麻生、下田平の3部落より二ツ井町に合併するとの声が大きく出ました。どの村も一丸となって合併に進む時七座村だけ2つに割れる事はお互いに不利であろうと今泉、前山、黒沢が分村阻止運動として七座天神両小学校で

分村反対の村民大会等を開催しました。そして鷹巣町へ合併しましたが、程なく天神地区の住民投票が行われ、大多数の分村賛成となり二ツ井町に分村合併となりました。やはり地理的にそして言葉や風習も山本風であり当然であったと思われました。明治以来70年間つき合った七座地区がこの様に二つになった事は他に例のない出来事であったとこの北秋田市の合併により当時を思い出しました。



故郷の昔も残して

木村 庄一
東京都世田谷区(住吉町 旧仲通り 出身)

50年目にして又四町合併「北秋田市」となる。確に世の変遷であるが全く町史に於ける大変革である。道路が整備され、飛行機が飛び近代化される地方小都市の未来に子供達は夢を抱いて喜んでいました。

最早町名も失われ、その文字さえ消える鷹巣町には、万感胸に迫るものがある私達の年代であります。町を出て60年。東京にて暮らす身には今以て幼い日より育まれた故郷の思い出がある。私にとって特に忘れ難

い故郷の佇まい。それは小学校4年生の秋頃か、先生に引率され陣馬岱より眺めた鷹巣町、眼下に米代の流れ、その先に見えた小学校の掲揚塔に翻る鮮やかな日の丸の旗、周りを囲む街並、離れて栄、綴子、坊沢、前山の聚落の家並、黄金色に実った一面の田圃、あの一幅の繪に誘う風景が私の育った故里鷹巣町であった。現在は何のように変わっているのか？(元東京鷹巣会会長)



あの日 あのころ

豊村 政吉
宮前町

私が生まれ故郷の合川町から鷹巣町へ居住してから今年で60年目になります。鷹巣町の皆さんのお世話になりました。ありがとうございます。

終戦後、海外からの引揚者や戦災孤児の皆さんは、60年を迎えたこの年にどうしているだろうか。私は、

昭和20年の11月から鷹巣町を拠点に海外引揚者や戦災孤児の救護活動にあたりました。当時の鷹巣女子高校や県北の各高校生、鷹巣町民からの全面的な協力で、多くの人たちの

援護にあたりました。当時は食糧難で、食べるのにも事欠く状態でしたが、鷹巣町に建てた戦災孤児の家には、いつも10人ほどの孤児達が生活して、町民の温かい援助で約300人が飢えをしのぎました。

あの子たちはもう70歳を越えているでしょう。今どこで、どうしているでしょうか。立派に成長していると思います。お元気でしたら60年目の年にお世話になった皆さんと再会したいと思っています。



▲ 森林軌道で運び出される天然秋田杉
(昭和30年代)

伐採した天然秋田杉を運搬するために、大正末期頃から活躍した森林軌道。鷹巣から終点の明利又までは24キロ、支線も含めると50キロの延長があり、時には人の交通手段としても利用された。しかし、トラック輸送の時代が訪れ、経営合理化のため昭和40年には完全廃止された。



天然秋田杉の思い出

本城 和雄
藤株

私は昭和22年4月1日に鷹巣営林署に採用になり平成2年3月31日付け定年退職したのですが、今でも脳裏からはなれないのが当時の天然秋田杉です。

鷹巣営林管内は樹齢200年から300年の天然秋田杉の宝庫でした。ここで説明しておきますが、見本は鷹巣営林署から提供されたもので、沢口林業センターにあります。厚さ21センチで盤台に切断したもので、産地は鷹巣町七日市仙戸石沢国

有林で、伐採は昭和54年11月1日樹高37メートル、胸高直径94センチ、樹齢230年、これが天然秋田杉1本の姿です。

これを伐採して丸太にしたものを森林軌道で鷹巣貯木場まで運搬し、貯木場で丸太一本毎に品等に格付けし、品等毎に巻立したものを一般公売指名入札随意契約という形で販売したもので、特に一般公売にしたものが驚く程の高値で売れたこともありました。



地域の躍進を願って

佐藤 善壽
元町

50年を翻って歴史を繙くと昭和の大合併（綴子・七日市と鷹巣）以来数知れない細々の積み重ねで構成される。

処生は当時、20代前半、鼻つたれ小僧何のビジョンも持たず今思うと赤面の至りである。戦後復興と当町は未曾有の大火復興期、昭和の合併はプラス因子として復興に大きく貢献したと信じている。この50年間町報誌「広報たかのす」の発行数約1

000冊。行政と町民の深い絆と一体感を醸成する太いパイプ役を果たしてきた。

今、平成の大合併で市制移行と共に町報誌が絶版となるが、発展的解消とあればむしろ喜びとするところです。

この後は市長を先頭に4万3000人市民が天空を雁行するが如く飛翔し、北秋田市の限らない躍進をただただ、心から祈るばかりである。



子供達との日々のドラマ

田村 昭子
旭町

昭和32年、米代川を舟で渡り緑ヶ丘小学校に赴任した。豊かな自然に包まれた学校の3年間。昼の弁当は裏山で、春なら真っ赤なつつじの花の中、秋は村をあげての堤の魚捕り。

のは、共に過ごした子供達との日々のドラマ、力を出し合った地域の人達との語り尽くせぬ思い出の数々である。

その後、鷹小・鷹中・東小・竜小・南小と勤めさせて頂いた。学校統合が進められ、緑ヶ丘小も西小へ統合。鷹中はマンモス校と言われ、私が赴任した頃は生徒数1800人。集団就職列車を見送った頃である。鷹巣町を振り返ると、心に浮かぶ

また、鷹巣町役場内に事務所があった鷹阿教育事務協議会から、鷹阿の小・中学校を幾度も訪ねたが、子供達は生き生きと輝いていた。あの子供達も、もう同じ市民になる。未来を拓く子供達の為にも素晴らしい市の誕生を心から願っている。



鷹巣町を振り返って

清水 清治

前野

昭和の合併時、町の最南端に分町問題が勃発、住民投票で決着という大騒動の渦中に育った私は、当時未成年でしたが半世紀にもなる今でも選挙の投票がある度に、当時の大人の醜い争いが脳裏によみがえる。

当時の合併目的に、学校統合が背景にあったと言われ、その目的は達成されたものと思われるが、時世と共に生活の必需主体が町の中央部に集中されて、在郷では若者の減少と

資源価値の低下、過疎化の進行等々で、人々の互助の精神が希薄になってしまった事も否定出来ない。

平成合併の目的には、国・県等々の財政立て直しが背景にあると言われる改善の期待は大きい。早い時期にスケールメリットの利益が全市民に還元される健全な街が期待される。道筋は、新地方自治法の本旨に基づき後々に合併して良かった、と笑って暮らせる北秋田市になりたい。



パスポート携帯の青年が来る

今川 清太郎

糠沢

会員120名の連合青年会が、学習活動から運動体として進もつとの気運が盛り上がったのは昭和40年前後でした。

その活動等が評価され、41年3月全国青年問題研究会に参加の機会を得、その会場で沖縄代表より鷹巣の青年との交流の要請があり、3月24日4名の青年が来ました。

本土に来るにはパスポートが必要であること（米国統治下のため）、

その取得にも色々な条件が付され、日常生活上も制約が多く、当然通貨はドル単位等々の話があり、青年達も本土復帰を目指し頑張っている実例報告に、平和に対する意を新たにしたい記憶があります。

昨今、青年達の声が殆ど伝わってこない。豊かさに埋没したのか寂しい気もする。

新北秋田市には若者達の力を期待したい。



▲昭和30年頃の北秋田地方事務所

明治時代、郡役所として設置された旧北秋田地方事務所(現北秋田地域振興局)は、昭和25年の鷹巣の大火で焼失した。このとき、明治以来何度も持ち上がった大館への事務所移転問題が再燃するが、結局元の場所(今の郵便局の隣)に再建された。これには、当時の婦人会の存続運動も大きな力になった。(写真:成田多千雄さん提供)



旧町の大火と婦人活動

寺田 榮子

材木町

昭和25年旧町の大火で町の約半分を焼失したが、その後町は、郡市計画によって整備され、都会的センスの町並となった。町の繁華街は、仲町↓大町↓銀座通りと東へ推移。

大火で地方事務所(現地域振興局)も焼失し、その再建について他地域への移転問題が急浮上し、鷹巣町にとつては大問題であり、当時の成田喜八町長さん始め、関係者、婦人会の皆さんが鷹巣町に存置のため血涙

をしばって陳情運動を繰り広げた結果鷹巣に決定。地域振興局の存在は、新市の発展に寄与するところ大。

昭和60年から実施のふるさと踊りと餅つき祭、中央公園でのあじさいの丘植樹など婦人団体連絡協議会(会長中嶋喜代)の活動は、町の活性化や美化に大きな役割を果たしている。「揺籃を動かす手は世界を動かす」の言葉の如く、厳しい環境を生きぬいた女性たちの力は大きく逞しい。



◀昭和27年、秋田魁新報社の「秋田三十景」に選ばれた鷹巣中央公園。以来、50年以上にわたって整備され、町民に親しまれている。浮島の松の一部は昭和56年の台風15号と平成3年の台風19号で倒れたが、婦人会によるあじさいの植樹などもあり、憩いの場としてさらに整備が進んでいる。（写真は松が倒れる前のもの）



鷹巣町大火復興の活力が今日の発展の基礎となる

菊地 靖考

埼玉県三郷市（松葉町出身）

遙かに望む森吉山よ 米代川に影
さして・・・旧鷹巣中学校（横町）
時代の校歌の歌い出しである。今でもこの校歌を歌っていた時代を鮮明に想い出す。

しかし、合併してもこの風景は限りなく不変であり、未来永劫私達のふるさとの象徴として四季折々の自然を映し出して、新しい時代を見守ってくれることであろう。

今、私は新しい機軸として経営リスキーマネジメントの一環として「防

災（土）コンサルタント」に精力を傾け地域防災に取り組んでいる。この取り組みの元は、何といっても昭和25年6月1日未明に発生した「鷹巣町大火」である。紅蓮の炎に真っ赤に染まった空を今でも想い出す。

しかし、町のその後の復興は、行政・町民の団結をもって、新しいまちづくりの源泉となった。この活力が新「北秋田市」建設の基礎となることを信じ発展を願う者である。（東京鷹巣会会長）



鷹巣中央公園の由来

長谷川 裕

静岡県静岡市（松葉町出身）

昭和27年、秋田魁新報社が新聞の片隅に投票用紙を掲載して、秋田三十景を募集した。

私の亡父は、旧沢口村出身で沢口会を組織していて農業用貯水池で出島に二本松と山桜が美景だった、堂々岱堤を鷹巣中央公園と称して応募した。主に沢口会が新聞を集めたが、私も学校で集めたり投票用紙を切り取ったりして手伝った。県内の名所や景勝地に比べ堤は無名で、中間発表があることに30位前後で幼心に一

喜一憂したが願いが通じて26位で当選した。

当時、昭和の町村合併の気運があり堤が新生鷹巣町の中央に位置することから、沢口会が命名したのです。その後、町民の憩いの場として立派に整備され、県下有数の桜の名所となった今、帰郷の折々、沢口会の功績を称える記念碑の前に立ち、美観に見惚れていると、少年期に関わったからだろうか深い感動が湧いてくる。



鷹巣町元町の思い出

五代儀 博紀
元町

私の住む「元町」は旧町内名「仲町、三吉町、太平町」の3町からなり、通称本町通り1丁目、3丁目と呼ばれた通りには役場、造り酒屋、米の取引で栄えたと言われている高い石垣のお屋敷があった。

こどもの頃、冬は酒屋の大きな広い屋根からのそり遊び、夏はお屋敷の裏で馬も人も一緒に川遊びをした。平成の今、建物は移転や解体等であつなくなり大樹も取り払われ中代まで

見渡せる明るい街並みに変貌した。跡地には未来を託すこども達が通う保育園、周辺には買い物客でにぎわうスーパーなどの店が誕生した。

また、この通りには我が家をも含め家具、建具製造業者が7軒もあり新学期時には学校に納める机や椅子づくりが恒例の作業となっていた。名物の市日は昔も今も定期的に開かれ相変わらずの情景で、新市でも元町は市日通りの様相である。



▲解体が始まった頃の元町・相馬邸

元町のシンボリックな存在だった相馬邸は、豪商・相馬栄治（1872-1952）の建てた大邸宅。高い石垣とケヤキ並木に囲まれた広い邸内には、意匠を凝らした庭園などもあり、通りに面した重厚な門とともに、大正から昭和初期にかけての鷹巣町のたたずまいを見せていた。

昭和25年の鷹巣の大火にも焼けず残ったが、平成16年、惜しまれながら屋敷は取り壊された。



S君のこと

渡部 満
新田中

昭和47年、鷹中に赴任した。3年2組、43名の学級だった。一人一人が個性に富んだ生徒集団で、中にS君という愛すべき少年がいた。クラスのアイドル的な存在で、皆から好かれていた。

6月9日から始まる修学旅行の一週間前に迫った日の体育の時間に、S君が跳び箱を失敗し鎖骨を骨折してしまったのだ。本人は行きたいと泣きながら懇願した。しかし主治医

の判断で一緒に行くことができなかった。旅行中お金をカンパして、おみやげを買った。帰ってからクラス代表と見舞いをかねて届けに行つて驚いた。それぞれ個人で買ったおみやげが山のように積まれていた。10月10日の体育の日に、S君のために十二湖への小旅行が実施された。38名が参加した。好天に恵まれ、海辺で心行くまで遊んだ。心優しい3年2組の生徒たちだった。



「鷹巣」を想い北秋田市へ望む

長崎 博文
新屋敷町

鷹巣町の地名が消滅するというのに、その現実を素直に受け止められないでいるのは何故だろうか。50年間の特段の思い入れもなく過ぎてきたのに、いざ消滅するとなれば一抹の寂しさを覚えてしまうのである。県内で鷹巣町が一番大きい町であると言われ続けてきた事に密かな誇りさえ感じていました。自立の時代への大きな変革の流れが、身近な私達の所へも押し寄せてきたのだなと実感せずにはいられません。

私が参加してきた鷹巣町主催の行

事は、元旦マラソン、交通安全祈願祭、社会を明るくする運動、町民体育祭、他年間を通して子供会育成会の活動に参加してきました。目線を安全、健康、福祉活動に当てて鷹巣町へ関わってきた感じがします。新北秋田市の誕生に向けて、壮大なスポーツエリアゾーン建設の構想があると聞いております。これが実現すれば、地域に及ぼす影響は、絶大な効果をもたらすと思ひ、その実現に多いに期待している所です。

◀旧役場庁舎落成時の町職員。
袴姿は当時の成田重太郎町長
(昭和12年)



◀旧役場庁舎2階にあった議場の
議会議場風景。
(昭和40年代)



合併後、旧鷹巣町役場庁舎が役場の所在地となり、6つの旧村役場ごとに支所が置かれた。元町にあった木造2階建の旧庁舎は、昭和12年の建設以来、昭和44年に現庁舎が新築されるまで33年間使われた。

合併にあたって思うこと



畠山 洋子
七日市本郷

私が町職員となり鷹巣町民となつたのが昭和34年ですから、昭和の合併の直後でした。町のことも議会のこと何も知らないもので、すべて、こんなものと思っていました。今、振り返ってみると、大変革期に就職していたのです。

議会のある日は、旧役場庁舎の狭い廊下を大声で闊歩する議員の姿が見られるものでした。

あれから50年経ちました。これ

までは鷹巣阿仁地方の地域住民として共生してきましたが、今度は北秋田市民となり、生活圈を拡大できそうです。自然豊かな森吉山をはじめ地域資源を自分の住む市の財産として接し生きられることを思えば、夢が膨らみます。この合併を期に、できれば大館能代空港を北秋田空港と名称変更できないものかと思うのです。北秋田市の新しい地名を全国に発信して地域発展に繋げたいものです。

さようなら鷹ノ巣



小塚 弘子
堂ヶ岱

「鷹巣町」この「タカ」の字、小さく書くとまつ黒、ゆっくり書くと枳からはみだす、何とかならないかしらと思いつきながら住所を書いていたのは私だけではないと思います。

青年会で県の大会へ行った時「鷹」の字をつい「バ」と略して書いて住所を教えたら、年賀状があて先不明で戻ったと、良く聞いたら鷹が六(ロク)になっていたと笑い話になったこともありました。

鷹ノ巣町とノが入っていたのが鷹巣町に、時の流れと町の変遷への思い出は書ききれませんが、自然に恵まれ、人間味あふれるとても住みやすい町です。

そんな「鷹巣町」が消えるとは思いませんでした。少しさみしさが残りますが、ありがとう「鷹巣町」そしてさようなら「鷹巣町」。

新市に望むこと



長岐 桃子
あけぼの町

私が高校を卒業した当時は、公務員も会社も採用枠が少ない時であった。その後高度経済成長を成し遂げた日本では、若者は様々な職業に就けるようになった。同時に農作物の価格が上がった事などにより購買意欲が旺盛になり、自宅を新築したり新車を買うなど地域経済も活性化した。しかしバブルの崩壊により以前は考えられなかった大企業が倒産し、日本経済を奈落の底に突き落とした。

ようやく明るさが見えてきた昨今財政再建のために地方分権が叫ばれ自己責任のもと市町村合併が強力に推し進められているが、現下の事情では避けて通れない選択なのかもしれない。そこで私が新市に望むものは、次代を担う若者が安心して活動に専念できる条件を作ること。また豊かな地域資源を生かし、北秋田市ならではの地場産業を進展させてもらいたいということである。



「ホークス」よ 永遠なれ

松尾 健 正

太田

平成元年、役場に企画調整課が誕生した。何をなすべきか一職員の「一人一提言」の中にあつたのが「ホークスサミット」の開催であつた。全国「鷹」の字のつく自治体に呼びかけ交流を深めようというものだつた。

ユニークなアイデアはすぐ採用され、北海道鷹栖町、山形県白鷹町、東京都三鷹市、長崎県鷹島町の4自治体に提案した。このことが全国紙で紹介されたこともあり4自治体か

らはすぐ賛同の返事が寄せられた。この年の11月、三鷹市で行われた第1回サミットには同市在住の町出身者10数名が顔を見せたのは忘れられない思い出だ。

第2回は当町での開催。みちのく子ども風土記館の囲炉裏を囲んでの首長の話し合いは好評だつた。5市町の交流はいまも続いている。さまざまな収穫があり、「北秋田市」になつてもぜひ継続してほしいイベントである。



▲三鷹市での第1回ホークスサミット（平成元年）

「鷹」の文字のつく自治体交流として始まったのがホークスサミット。4町が一堂に会するイベント交流はいったん終了しているが、相互防災協定などによる自治体レベルでの交流、また、民間交流も行われており、北秋田市になつても、交流は引き継がれることになっている。



新しい市に望むもの

大川

相善町 隆

私が生まれた翌年に昭和の大合併により鷹巣町が誕生してから約50年、平成の大合併による「北秋田市」の誕生により「鷹巣町」という慣れ親しんできた名称が住所表示から消える事に一抹の寂しさを感じております。

合併後においては、鷹巣地域が経済の中心地域としてリーダー的な役割を担い、「北秋田市」の新しいまち創りの原動力になつてもらいたい

と思います。

また、今後急速に進行する事が確実視されている人口減少と高齢化社会への対応を最重要課題と捉え、若年層の雇用機会の増加のため具体的かつ有効的な対策を早急に講じるとともに、高齢化対策にも目を配りながら「北秋田市々民」がこのまちに住むことに対し充足感が得られるような「新しい市」になることを期待します。



町政から市政へ変わる住民自治

山田 花子

松葉町

鷹巣が住居表示から消える。でも、駅名や橋名などはそのまま残る。長い間慣れ親しんだ故郷の名前が消えてしまうのはやはり悲しいことだ。

それにしても「あきた北」空港がある「北秋田」市、まだピンとこない。廃藩置県に始まる府県令、明治・昭和の大合併と進み、今回の平成の大合併。せめてもの古き良き伝統的行事その他は、何としても残していきたいものだ。そして、子供たち、

後世にその名を確かに残し伝えていく使命がある。

合併には、期待と不安が交錯する。自治体はどう変わり、どんな影響が出てくるのだろうか。果たしてシミュレーション通りにいくのだろうか。いずれにせよ、私たちは、これまで以上に「地方自治」の原点に返り、自分たちの手で住みよい暮らしやすい市づくりに励んでいかなければならないことに変わりはない。



▲町内をまわる鷹巣青年会の曳き山（平成2年）

青年会は戦前からあった若者の組織。昭和30年代から50年代までが最も盛んで、各地区また集落ごとに青年たちが活動していた。最近では、生活観の変化とともに青年会組織はすたれが、町を活性化する若者のパワーが待たれている。



鷹巣青年会の思い出

工藤 敏明

秋田市（南鷹巣出身）

昭和60年、元気のである町づくりをテーマに、鷹巣青年会で7月25日の鷹巣神社祭典に曳き山をつくり旧町内を練り歩きました。当時は6、7名で会員の友達や同級生に協力を依頼し人数を確保しました。また、曳き山の材料は坊沢青年会、組み立ては七日市青年会、踊りの指導は栄青年会の協力を得て成功させた思い出があります。

みなさんが毎年青年会の曳き山を待ってくれるようになり町や商工会、地元新聞社から時期になると声が掛かったりとすっかり定着しました。祭りで頂いた寄付金は、青年会の活動資金となりキャンプや旅行、スキーに仲間と行った楽しい思い出が沢山あります。私は現在秋田市に住んでおりますが、北秋田市になっても楽しい思い出いっぱい鷹巣です。うっと居て下さる事をお願いします。



新たな故郷の誇り

遠藤 元博

深 関

鷹巣町に生まれ育ち45年、私にはずっと鷹巣町を誇りに思う心がある。ある時は人口の多い町であること、ある時は飲み屋の多い町であることなど様々であった。

小さい頃、今の町民体育館周辺で毎日小魚や亀を追ったこと、鷹巣に初めて特急列車が止まったこと、バレーボールに燃えた日々……。こうしたよき思い出と重なり合いながら誇りに思う心が醸成されてきたよ

うに思う。ある意味では少し寂しい気持ちもあるが新しい市への期待の方がはるかに大きい。

活気とぬくもりのある交流都市を目指し、今、北秋田市がスタートする。「行政が何をしてくれるか」ではなく「住民一人一人が何をやるか」という視点で新しい都市づくりに微力ながら参画していくことができればと思う。いつまでも自分の故郷が誇りと思えるように。



「宝物」・・・そして、ありがとう

藤 島 鉄也

東中代

「緑の山に囲まれて、黄金の稲穂・・・明日の栄を築こうよ」町民歌を胸に鷹巣町の歴史を私は忘れない。子供の頃、大勢の仲間と外で遊ぶだ、パッチ、コマ、缶蹴り、はりつけ、六むし、てんが！無我夢中に。

鷹巣青年会に入り、大勢の若者が集い太鼓を叩き、踊り、旅行に行き酒を飲んだ。今は無き鷹巣青年会。道路ができ、遺跡が発掘され、橋ができ、人の流れが変わり、様々な建物が取り壊されては、環境も変わ

った。良くもなり悪くもなった。合併したら子供が増える・・・遊びを伝えよう。青年が増える・・・新たに団結してほしい。道路がかわる・・・様々な人間模様が描かれるだろう。

良い合併であったと言えるように、新しい「北秋田市」に夢と希望を期待します。歴史、祭り、特産物と各町の持ち味が集まり、「宝物」が増えるのだから・・・鷹巣町よ、ありがとう。



小学生の頃に描いた材木のまち

藤島 明 範

茨城県つくば市(東横町出身)

美術関係の仕事をしている私にとって、その原点となっているのが鷹巣小学校5・6年の美術の時間です。特に印象に残っているのが共同木版画。テーマは確か「町の産業」か何かで、福住町の九島木材さんにスケッチに行つて製材所の中の働く人々を描きました。

その頃は、駅周辺にたくさんの製材所や貯木場がありました。森林鉄道の「ガソリン」が廃止されてトラック輸送に代つていた頃ですが、工場の中にはまだ引込み線が残っていました。丸太の山、材木を運ぶフォークリフト、木を挽く帯鋸、製材された角材、機械操作のおじさん、木っ端の山、それをチップに加工するおばさんたち……。私たちは6・7人ずつの班で、その様子を大きなベニヤ板の木版画に描いたのですが、鷹巣といえば材木の町でしたが、その風景は私の心に今でもはつきりと焼きついています。(彫刻家・美術教員)



▲営林署貯木場(昭和30年頃)



▲農協市場(昭和40年代)

昭和30～40年代の鷹ノ巣駅前の光景。貯木場の通りが材木町、農協市場の通りが福住町と呼ばれていた頃。



笑顔が集まる場所

岡村 順子

東横町

鷹巣町当局をはじめ地域の皆様のお支えを頂いて、今年度、私共の鷹巣教会幼稚園は創立50周年を迎えることができました。鷹巣町で初めて開設された戦時託児所を前身にし、1954年には鷹巣保育園と枝分かれして鷹巣教会幼稚園としての一歩をあゆみだしました。この50年間に送り出した卒園児総数はのべ3194名になります。

鷹巣町当局をはじめ地域の皆様のお支えを頂いて、今年度、私共の鷹巣教会幼稚園は創立50周年を迎えることができました。鷹巣町で初めて開設された戦時託児所を前身にし、1954年には鷹巣保育園と枝分かれして鷹巣教会幼稚園としての一歩をあゆみだしました。この50年間に送り出した卒園児総数はのべ3194名になります。



▲鷹巣教会戦時託児所(戦前)

鷹巣教会幼稚園は、昭和16年に発足した鷹巣教会戦時託児所がその前身。戦後になると、脇神の生活改善グループによる季節託児所(昭和27年)や、綴子保育園(昭和28年)も発足するが、当時は保育施設、また幼児教育施設のさきがけでもあった。



鷹巣ばやしとともに

野呂 俊二
本屋敷

鷹巣町に移住して20年になるうと
しています。いろいろ変わりました。
独り身だったのが、家庭を持ち、家
を建てました。一番変わったのは、
太鼓打ちになったことでしょうか。
和太鼓を始めたのが17年前。見て
拍手する人からバチを持って演奏す
る人になってしまったのですから、
自分でも驚きです。

いだから、もう趣味の域は越えまし
た。続けていく義務感のようなもの
も感じています。応援してくださる
皆様のお陰があつて、続けてきまし
た。ありがたいことです。
町から市に変わりますが、もとか
ら太鼓の響きに境はありません。
鷹巣ばやしは、聞く人々が元氣と
活力を湧き起こすように、ドドン
と北秋田市全体を震わす太鼓を打ち
鳴らすことでしょうか。



鷹巣町最後の成人式を迎えて

藤島 翔悟
住吉町

おぎゃーと生まれ早、今年成人を
迎えます。鷹巣町での生活20年短い
様で長かった。いい出会いに恵まれ、
良き級友、良き家族、良き恩師との
20年間俺にとって鷹巣は最高でした。
地元就職し将来飲食店を経営す
べく修行中の身、いつか店を開いた
ら皆さん、俺を酒の肴に飲みに来て
下さい。

と思う。進んで良き北秋田市を築い
て行こう。先輩達が頑張つて鷹巣を
盛り上げた様に俺達も未来に向かい
努力します。どうなるかなんて誰も
解らない事ですが俺達がここで暮ら
すと言う事は北秋田市をどうイメー
ジして行くかです。

町村合併の年でもあり、何かと騒
がれている中、俺達は進むしかない

心から鷹巣町ありがとう!!!
そして、北秋田市よろしく!!!
(^o^)



老若男女幸せに暮らせる町を

高橋 沙綾
鷹巣中学校1年

小学校4年生の時、福祉をテーマ
にした学習に取り組んだことを思い
出します。
クラスみんなで商店街を歩き、
目の不自由な歩行者のための点字ブ
ロックの妨げになる自転車の置き方
など、気づいたことを話し合いまし
た。また、町中にゴミが多く捨てら
れていることから、ポイ捨て禁止の
チラシを作り、それを配ったりと、
町のために自分たちができることを

実践しました。
その中で、お年寄りや身体の不自由
な人のための福祉施設が充実して
いることや、その一方で若い人達が
働いたり楽しんだりする場がとて
少ないということも知りました。
4町の合併により、鷹巣町という
地名はなくなりますが、老若男女が
楽しく幸せに暮らせる『北秋田市』、
本当の意味での福祉の町をみんなで
作っていききたいと思っています。



郡から市へ広がる北秋田

神成 裕樹
鷹巣南中学校1年

鷹巣町と3つの町がつながつて、
北秋田市になります。学校の名前を
始めとして、いろいろな名前がどう
なるのか、とても楽しみだし、小・
中学校がどう変わるのか、早く知り
たいです。

また、小学校や中学校で行つてき
た、これまでの鷹巣町の探検から、

もっともっと広い地域となる北秋田
市の探検がとても楽しみです。同じ
仲間になったのだから、同じ市民と

して仲良くしていくためにも、いろ
んな知らないところに早く行つてみ
たいです。それは、自分の住んでい
るところ、同じ都市に住んでいる者
として、早く知らないところをなく
したいからです。それが、皆の仲間
意識をきつと強めてくれることでし
ょう。

でも、やっぱり「鷹巣町」がなく
なってしまうのは、少しさみしい気
持ちがします。

明治7年～（町村合併前）～昭和30・31年～（合併後）～平成17年

鷹巣町の小中学校のあゆみ

昭和の合併により、全ての小中学校が「鷹巣町立」となりました。

町民の皆様には、合併以来50年にわたりあるいはそれ以前から、各学校の児童生徒として、また父兄や地域住民として学校に関わっていただいております。

ここでは、生活の中で誰もが親しんできた各小中学校について、合併した頃、またそれ以前からの歴史を振り返ってみます。

昭和22年、戦後の教育制度改革により、6・3制が発足、中等教育も義務教育となり、中学校が必要になりました。

しかし、戦後の貧しい自治体財政の中で、学校建設の費用はすぐには捻出できず、小中学校に併設された状態が続ぎ、またその後中学校が統合されるまで独立校舎がない学校もありました。

昭和の合併、また国の方針などによって、学校統合の必要性が高まり、33年には統合鷹巣中学校、35年には統合鷹巣南中学校が発足します。41年には竜森中が南中に統合されます。

統合鷹巣中は、生徒数が1500人を超える、県内でも有数のマンモス校でした。

小学校は、明治23年までに、分校や授業所を含み、17の小学校が開設されましたが、合併時には、14校ありました。

鷹巣町では、その半数がへき地にある小規模校や分校でしたが、小規模校ならではの熱心な教育が実践され、竜森小学校では昭和30年代に、全国学校植林コンクールで

特選となったこともありました。

その後、学校の適正規模を図る必要性などから、昭和46年までに順次統合が進んで8校に、同54年には綴子小学校岩谷分校が本校に統合、現在の7校になっています。

また、学区も幾度か変更になっています。昭和40年代には、新田中、掛泥、南鷹巣地区が、鷹巣学区から綴子、東、中央の各小学区へそれぞれ編入されました。

時代の変化とともに少子化が進み、合併時には3600人ほどだった児童数が現在では1100人に、1800人ほどだった生徒数が600人に減っています（概数）。新市では、少子化への対応など新しい時代の課題に合わせ、環境を整えて行くことになります。



▲昭和31年頃の綴子小学校糠沢分校で学ぶ子どもたち。校舎は農家式の萱葺き屋根で、50坪くらいの簡素な分校だった。（写真：石川太永治さん提供）



小中学校の変遷（主な動き）

へんせん

明治7年	明治5年の学制発布により鷹小・綴子小・七日市小が創立、以後、明治40年までに、計17小学校が創立する。
大正2年	郡立農林学校が七日市に設立される。
昭和4年	同校が県立として旧鷹巣町に移転。沢口小学校移転新築。
昭和19年	坊沢小学校観音堂校舎新築落成。学制改革により、新制中学となる。
昭和22年	竜森中学校新築。
昭和27年	沢口小で学校給食始まる。
昭和29年	7力町村が合併し、新鷹巣町が発足。
昭和30・31年	統合鷹巣中学校創立。
昭和33年	統合鷹巣南中学校創立。
昭和35年	坊沢小学校新築。鷹中寄宿舎設置。
昭和38年	綴子小糠沢分校が廃止、本校に統合。
昭和39年	綴子小校舎新築。
昭和40年	竜森中が南中に統合。
昭和41年	鷹巣阿仁教育事務協議会設立。
昭和42年	七座小学校が火災で焼失。南小、中央小の2校が創立。
昭和44年	鷹小に「ことばの教室」を開設。
昭和46年	南小、中央小、竜森小、西小の各校舎新築。北部給食センター開設。
昭和53年	北幼稚園開設（西幼稚園は55年）。
昭和54年	岩谷分校廃止、綴子小学校に統合。
昭和58年	鷹巣小新校舎完成。
平成5年	東小新校舎完成。
平成6年	鷹中校舎新築。
平成10年	鷹巣町教育センター設立。
平成15年	フードセンターたかのす（南部給食センター）完成。



鷹巣町立

鷹巣小学校

- 学校創立明治 7 年
- 児童数348人 学級数15
- 〔所在地〕
- 鷹巣町鷹巣字南中家下37番地1



▲浄運寺に「鷹巣学校」として開校し、昨年創立130周年を迎えた鷹巣小学校。現在の校舎は6代目。



▲最も長かった寺東時代の運動会風景。校舎は現在の児童公園から町役場にかけての場所にあった。

現在の校舎は6代目

鷹巣小学校は明治7年8月2日浄運寺に「鷹巣学校」として誕生した。当時の先生は青柳丹蔵校長一人だけ、児童は64人だった。

その後、児童数の増加などにもない、仲町、新町、寺東横町、現在と、5回も校舎の位置が変わっている。

鷹小は新学制が施行された昭和22年には児童数1192人、合併後の昭和35年には、児童数1575人と郡内でも屈指

の大規模校であった。

児童数の増加に対応するため、昭和38年には、東横町の旧鷹中校舎（統合前）に隣接して新校舎を新設した。

昭和49年には体育館を新築、合わせて創立100周年記念式典を行い、翌年2月、記念事業としてタイムカプセルを「大望の像」に収納した（昨年、移設・開封し、新たに収納）。

現在の中岱校舎ができたのは昭和58年。昨年平成16年には創立130周年を迎え、歴史は北秋田市に引き継がれる。

児童数・学級数の推移（資料：学校基本調査）

区分	S35年	S47年	S55年
児童数	1,575人	863人	782人
学級数	33	24	23
区分	H2年	H12年	H16年
児童数	511人	401人	348人
学級数	19	16	15

昭和43年、新田中地区が綴子小学校区に、44年、南鷹巣地区が中央小学校区に、45年、掛泥地区が東小学校区にそれぞれ編入。



学校の沿革



明治7年 浄運寺に鷹巣小学校設置。

10年 仲町（現元町）に校舎新築・移転。

20年 新町（現大町）に校舎新築・移転。

34年 寺東（今の児童公園から役場にかけての場所）に校舎新築・移転。

大正7年 体操場新築落成。

昭和16年 国民学校施行令により鷹巣国民学校と改称。

22年 新学制施行、鷹巣小学校と改称。高等科を廃止し中学校を創設。

23年 新しい校章を制定。9月にPTA結成。初代会長渡辺力氏。

29年 創立80周年記念式典。校旗、校歌制定（朝日了回作詞、大山会三郎作曲）。

35年 2年生と5年生を旧中学校校舎（横町校舎）に移し、授業を行う。

38年 特殊学級（知的障害学級）設置。8月、横町に校舎新築・移転（現中央公民館分館）。プール竣工。

39年 創立90周年記念式典。

46年 特殊学級（言語）ことばの教室開設。創立100周年。体育館竣工記念式典。

49年 タイムカプセル埋設、記念像除幕式。

50年 特殊学級（難聴）きこえの教室開設。

52年 南家下（現在地）に校舎新築・移転。

58年 プール竣工。

60年 金管バンド部創設。

平成元年 創立120周年記念モノUMENT設置。

6年 エレベーター、コンピュータ室設置。

10年 創立130周年。創立100周年記念事業のタイムカプセルを開封、新たに収納。

16年



鷹巣町立

東小学校

- 学校創立明治12年
- 児童数121人 学級数6
- 〔所在地〕
- 鷹巣町栄字田沢古川布252番地



▲現在の校舎は、平成5年に新築された。創立127年目を迎え、北秋田市に引き継がれる。



▲昭和30年に栄小中学校として建設された旧校舎。昭和3年にできたこの前の校舎も古川布にあった。

米代川とともにあった歴史

明治12年、摩当村伍長会議所を校舎にあてて開校した。栄村では、村の中央を米代川が横切っていることから、大正14年に橋が架かるまでは太田分校との2校体制の時代があった。架橋後の昭和3年、通学上の支障がなくなり摩当と太田の中間地である現在地に統合尋常小学校が設立された。昭和30年、町村合併により町立栄小学校と改称、新校舎が新築される。

45年には現在の東小学校と改称、この年、学区変更により掛泥、高野尻、あけぼの町の一部を編入した。平成5年、現在の校舎が新築・落成する。栄小は側を流れる米代川に大きな影響を受けてきた学校だった。洪水による橋の流失で通学に支障をきたし、また、校舎への浸水で、大きな被害を受けたこともたびたびあった。しかしその後、橋や堤防が整備され、「水辺の楽校」が河川敷に開校するなど、川に親しめる環境が整えられている。

児童数・学級数の推移（資料：学校基本調査）

区 分	S35年	S47年	S55年
児童数	293人	213人	251人
学級数	7	7	9
区 分	H2年	H12年	H16年
児童数	162人	134人	121人
学級数	7	8	6

昭和35年は栄小。学区変更で掛泥、高野尻、あけぼの町が編入。



学校の沿革



明治12年 摩当に栄学校が設立。
 14年 太田分校設置。
 25年 栄尋常小学校設立。
 36年 2校独立。栄学校を廃し、栄尋常小学校を太田尋常小学校に、摩当分校を摩当尋常小学校に改める。
 43年 摩当尋常小学校の冬期分教場（田沢、李岱）を開設。
 大正14年 米代川に架橋、統合の気運高まる。
 昭和2年 小摩当分校開設。
 3年 栄尋常小学校創立（9月）。
 新校舎落成（10月）。
 栄国民学校と改称。
 16年 栄村立栄小学校と改称し、栄中学校を併設。
 22年 町村合併により鷹巣町立栄小学校と改称、11月、栄小中学校新築校舎現在地に移転。
 30年 創立80周年。栄小校歌制定。
 34年 完全給食実施。
 35年 プール完成。
 42年 学区改変（掛泥、高野尻、あけぼの町を編入）。町立東小学校と改称。
 45年 東小校歌、校章制定（校歌作詞・九島与治郎 作曲・後藤惣一郎）。
 54年 創立100周年記念式典。
 平成4年 給食、センター方式に移行。
 5年 新校舎新築・落成。
 6年 プール、グラウンド完成。
 8年 河川敷公園「水辺の楽校」開校。
 11年 創立120周年記念式典。



鷹巣町立

綴子小学校

- 学校創立明治7年
- 児童数203人 学級数8
- 〔所在地〕
- 鷹巣町綴子字街道下59番地



▲現在の綴子小学校。町村合併後新築された学校の中では最も早い昭和41年に建設されている。



▲上町・肝煎屋敷跡にあった旧校舎。この場所は、明治19年から昭和40年まで校地として使用された。

地域の伝統を受け継いで

綴子小学校のある綴子地区は長い歴史を持つ。同校校歌の歌詞にある地名「肉入籠」は、日本書紀に記されている綴子の古名である。

藩政時代から内館塾、宮野塾など私学教育の伝統があった同地区では、小学校の創立も明治7年7月30日と、鷹巣町では最も早かった。

村は当時も教育行政に熱心で、明治18年には、当時19歳の内藤虎次郎（＝湖南、後の東洋

史学者）を校長に招いている。

内藤校長のもとからは、高橋本吉（国會議員）、高橋宇一郎（県會議員）などの大人物も巣立っている。

分校の歴史も古く、明治14年には岩谷分校（昭和54年廃校）が、同24年には糠沢分校（昭和41年廃校）が開校している。綴子地区では、600年の歴史を持つという通称「大太鼓祭り」（八幡宮綴子神社例大祭）が知られ、児童たちもこの祭りの伝統を学校活動の中でも継承している。

児童数・学級数の推移

区分	S35年	S47年	S55年
児童数	607人	347人	353人
学級数	17	14	13
区分	H2年	H12年	H16年
児童数	314人	225人	203人
学級数	12	9	8

昭和35年には糠沢分校と岩谷分校、昭和47年には岩谷分校を含む。



学校の沿革



明治7年	綴子村宝勝寺内に校舎を仮設（その後、内館塾武内邸に移す）。開校時の児童は18名。
14年	岩谷分校新築落成。
15年	大畑分校新築落成。
18年	第五代校長として、内藤虎次郎（後の東洋史学者・湖南）就任。校舎を郷倉から高橋宇一郎邸に移す。
22年	岩谷分校を閉じる。
23年	綴子尋常小学校と称する。
24年	糠沢に分校教室を開校。
26年	岩谷に分校室を開校。
31年	高等科を設置、綴子尋常高等小学校と改称。
36年	創立30周年記念式挙行。
40年	西館に校舎新築落成。
41年	高等科3年設置、女子農業科仮設。
大正13年	創立50周年記念式典。
昭和5年	校歌制定。
16年	綴子国民学校と改称。
22年	新学制により綴子小学校と改称。
23年	PTA創立総会を開く。
31年	町村合併により鷹巣町立綴子小学校と改称。校章を制定。
39年	本校、糠沢分校を統合し、新たに綴子小学校となる。
41年	新校舎落成。西館校舎、糠沢校舎より移転。
49年	創立100周年記念式典
54年	岩谷分校廃校、本校に統合
平成16年	創立130周年を迎える。



鷹巣町立

竜森小学校

- 学校創立明治11年
- 児童数13人 学級数3（複式）
〔所在地〕
- 鷹巣町七日市字三の渡大野10番地1



▲平成16年の竜森小。学校活動は、地域一体となっていて行われている。今年で創立128年目を迎える。



▲昭和38年の鳥越校舎。そばに見える集落は三の渡。明治40年から昭和24年までこの場所にあった。

育林活動などの伝統も

創立は明治11年8月。七日市学校小猿部分教室として与助岱に開設された。明治5年の学制発布と同時に地域の世話役が村に働きかけ、実現したものだ。同25年、竜森小学校と称し、独立校となる。同40年、前校地の鳥越に移転。同時に葛黒に葛黒小学校が分離開校している。広大な林野に囲まれた竜森小学校には学校林があり、育

林活動で数々の表彰を受けている。昭和38年には文部大臣賞、農林大臣賞を受賞するなど地域ぐるみの活動は学校の伝統となっている。昭和45年、旧竜森小と葛黒小が統合、現在の竜森小が創立。47年、現校舎が新築・落成する。少子化の時代にあつて児童数は減少し、昭和50年代には複式学級が導入されるが、交通安全子ども自転車大会で10度の全県優勝を重ねるなど、小規模校としてのユニークな活動でも知られている。

児童数・学級数の推移（資料：学校基本調査）

区分		S47年	S55年
児童数		127人	47人
学級数		6	4
区分	H2年	H12年	H16年
児童数	38人	35人	13人
学級数	5	4	3

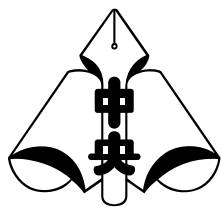
（統合後の指標による）

平成16年	51年	50年	49年	47年	45年	38年	31年	24年	22年	16年	15年	昭和12年	44年	40年	25年	明治11年
勝。県大会10回目の優勝。	創立120周年記念式典。	創立100周年記念式典。	小猿部地域集中豪雨。明利又地区に大きな被害。	学校林調査のため、林野庁官来校。	小猿部地域集中豪雨。明利又地区に大きな被害。	学校林調査のため、林野庁官来校。	小猿部地域集中豪雨。明利又地区に大きな被害。	学校林調査のため、林野庁官来校。	小猿部地域集中豪雨。明利又地区に大きな被害。	学校林調査のため、林野庁官来校。	小猿部地域集中豪雨。明利又地区に大きな被害。	学校林調査のため、林野庁官来校。	小猿部地域集中豪雨。明利又地区に大きな被害。	学校林調査のため、林野庁官来校。	小猿部地域集中豪雨。明利又地区に大きな被害。	学校林調査のため、林野庁官来校。



学校の沿革





鷹巣町立

中央小学校

- 学校創立明治8年
- 児童数180人 学級数7
- 〔所在地〕
- 鷹巣町脇神字高村岱79番地12



▲昭和47年に建設された中央小学校。今年平成17年で創立130周年を迎える。



▲解体前の沢口小学校。昭和4年、脇神から移転、高森塚ノ岱（現小摩当集落）に建設された。

町最初の学校給食導入校

明治8年9月、脇神学校として脇神の民家（畠山良助宅）に開校する。同年12月、脇神郷倉前に校舎を新築する。明治の合併前の脇神村、小森村、中屋敷村当時の頃だった（沢口村の発足は明治24年）。明治41年には沢口尋常小学校、大正11年には沢口高等尋常小学校と改称する。

昭和4年、建設地をめぐり、紆余曲折を経て藤株の郊外（現小摩当集落「前校地」）に新校舎が移転、新築される。昭和29年には鷹巣町で初めて学校給食が導入され、昭和34年には給食優良校として表彰されている。

児童数・学級数の推移（資料：学校基本調査）

区分		S47年	S55年
児童数		295人	337人
学級数		12	13
区分	H2年	H12年	H16年
児童数	267人	191人	180人
学級数	10	7	7

（統合後の指標による）



学校の沿革



明治8年 脇神学校として脇神畠山良助宅に開設。初代校長山形鷲之助。児童20名。脇神尋常小学校と称す。

20年 脇口尋常小学校と改称。

34年 坊山分校開設。

44年 坊山分校開設。

大正11年 沢口尋常高等小学校となる。

昭和3年 小学校移転問題で紛糾。村議会において、僅差で高森塚ノ岱（現小摩当集落）に建設することが決定された。脇神より高森塚ノ岱に移転、新築。

4年 脇口国民学校と称す。この年の児童数は594名、教員数は13名と、最も多い頃だった。

16年 沢口村立沢口小学校と改称。

22年 沢口村立沢口小学校と改称。

24年 PTA結成

29年 学校給食開始（鷹巣町で最初）。町村合併により鷹巣町立沢口小学校となる。

30年 坊山分校独立校となる（44年、南小に統合）。

31年 坊山分校独立校となる（44年、南小に統合）。

34年 全国給食優秀校として表彰される。

44年 中央小学校と改称。学区が変更され、南鷹巣地区が編入、小森・中屋敷地区が南小学区となる。

45年 中央小学校名目統合（中央校舎、鷹巣校舎）。

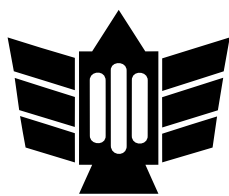
47年 実質統合。現在地に校舎新築移転。

50年 創立100周年記念式典。

平成7年 創立120周年記念式典。

15年 南部給食センター移転のため解体。

17年 創立130年目を迎える。



鷹巣町立

南小学校

- 学校創立明治 7 年
- 児童数121人 学級数8
- 〔所在地〕
- 鷹巣町七日市字中岱31番地



▲ 明治 7 年の開校以来、平成 16 年に創立 130 周年目を迎えた南小学校。現校舎の建設は昭和 46 年。



◀ 七日市小学校

葛黒小学校 ▶



▲ 旧葛黒小学校の学区は昭和 45 年の廃校後、南小学区と竜森小学区にそれぞれ編入された。

明治 7 年、竜泉寺に開校

創立は明治 7 年 8 月。七日市本郷に沢口の一部（当時、小森村、中屋敷村、脇神村）を入れ、校舎に竜泉寺をあて、七日市学校として発足した。その後、七日市簡易小学校、七日市尋常小学校と改称する。創立当初は小学校の学区も広く、与助岱や小森、湯ノ岱に分教場や巡回授業所を置いていた。

明治 34 年、七日市高等尋常小学校となり、高等科を設置する。七日市村は、長岐貞治村長（1849〜1904）の頃から教育に熱心で、明治 42 年には小学校に隣接して郡立農林学校が設立される。大正 2 年、旧鷹巣町に移転した農林学校の元校舎に小学校が移転する。昭和 44 年、坊山小学校と統合し、南小学校と改称、45 年には中央小の一部、葛黒小の一部を編入する（名目統合）。47 年には、現校舎が新築され、旧校舎は明治以来の長い歴史に幕を下ろした。

児童数・学級数の推移（資料：学校基本調査）

区分		S47年	S55年
児童数		265人	180人
学級数		9	8
区分	H2年	H12年	H16年
児童数	153人	127人	121人
学級数	8	8	8

（統合後の指標による）



学校の沿革

えんかく



明治 7 年 七日市学校創立
 11 年 小森小学校創立、与助岱分校開設。
 17 年 小森、脇神 2 校合併、小猿部小学校と改称。湯ノ岱に巡回授業所設置。
 20 年 七日市尋常小学校と改称。
 22 年 小猿部簡易小学校と改称。
 25 年 七日市簡易小学校と改称。
 31 年 再び七日市尋常小学校と改称。
 34 年 独立校舎新築。
 42 年 七日市尋常高等小学校と改称。
 44 年 郡立農林学校開校、校舎を一部貸与。
 45 年 郡立農林学校が県立に昇格し旧鷹巣町に移転したため、校舎を農林学校の元校舎に移転。
 昭和 16 年 七日市国民学校と改称。
 22 年 新学制により、七日市村立七日市小学校と改称。
 31 年 町村合併により、鷹巣町立七日市小学校と改称。
 44 年 七日市小学校と坊山小学校が南小学校に統合（名目統合）。
 45 年 中央小の一部、葛黒小の一部を南小学区へ編入（名目統合）。
 46 年 特殊学級を開設。
 47 年 校舎新築。47 年 3 月現校舎に移転。
 49 年 新校舎落成（実質統合）。
 59 年 創立 100 周年記念、統合 5 周年記念式典。
 60 年 創立 110 周年記念式典。
 平成 6 年 創立 120 周年記念式典。
 16 年 創立 130 周年を迎える。



鷹巣町立

西小学校

- 学校創立明治10年（統合昭和46年）
- 児童数120人 学級数7
- 〔所在地〕
- 鷹巣町坊沢字善千鳥坂5番地



▲ 坊沢、七座、緑ヶ丘、黒沢の4小学校を統合して発足した西小学校。学校の起源は明治10年。



▲ 昭和31年に発足した緑ヶ丘小学校。明治16年から昭和46年の廃校まで観音堂岱を校地とした。

昭和46年、4校が統合

西小は昭和46年、坊沢小、七座小、緑ヶ丘小、黒沢小の4校が統合して誕生したが、学校の起源は、永安寺に坊沢学校が創設された明治10年にさかのぼる。

明治10年代にはすでに七座地区、黒沢地区、現緑ヶ丘地区でも巡回授業所や分教場として授業が行われていた。

その後、明治20年には坊沢尋常小学校が開校する。坊沢小は、火災のため大正8年に

校舎が全焼したが、新築し、昭和46年の統合まで存続した。

七座簡易学校として前山に発足した七座小は、昭和12年今泉根立場に移転、その後昭和44年、火災により全焼する。明治26年に坊沢小観音堂岱分教場となった校舎は、変遷を経て昭和31年に校名を変更、緑ヶ丘小学校が誕生する。

明治13年に黒沢の民家に生まれた黒沢小学校は、分教場、尋常小時代を経て昭和34年創立80周年を迎えた後、同46年に廃校となった。

児童数・学級数の推移（資料：学校基本調査）

区分		S47年	S55年
児童数		331人	222人
学級数		13	9
区分	H2年	H12年	H16年
児童数	185人	148人	120人
学級数	7	7	7

（統合後の指標による）



学校の沿革



明治10年	坊沢永安寺に坊沢学校が開設される。
12年	学区の改正により坊沢学校が廃校となる（鷹巣小学校と同一学区）。
13年	坊沢学区の黒沢分教場が開設される。
15年	七座に鷹巣小学校の巡回授業所が開設される。
16年	観音堂岱（緑ヶ丘）に坊沢第1区巡回授業所が設立される。
17年	鷹巣小学校の坊沢分校が開校する。
20年	坊沢尋常小学校が開校。
22年	前山に七座簡易小学校が開校。
30年	黒沢尋常小学校が開校。
大正8年	坊沢小学校全焼、新築。
昭和12年	七座小、今泉根立場に校舎新築。黒沢分教室、麻生分教室（天神小学校）を開設。
16年	観音堂岱校舎、落雷により全焼。
17年	黒沢小学校不動下校舎新築落成。
19年	観音堂岱校舎新築。
30年	合併により鷹巣町立坊沢小学校、七座小学校、黒沢小学校と改称。
31年	鷹巣町立緑ヶ丘小学校発足。
38年	坊沢小学校新築落成。
44年	七座小学校全焼（3月18日）。
46年	坊沢・七座・黒沢・緑ヶ丘の4小学校が廃校となる（3月）。鷹巣町立西小学校が誕生（4月）。
47年	校歌、校章制定。
48年	校舎新築落成。
52年	創立100周年を迎える。
平成13年	西小統合30周年記念式典。

中 鷹巣町立 鷹巣中学校

- 学校創立昭和33年
- 生徒数430人 学級数15
- 〔所在地〕
- 鷹巣町坊沢字下上野79番地



▲今年で学校創立47年目を迎える鷹巣中学校。
「自主・友愛・誠実」の校訓は今も変わらない。



▲創立当初、1,500人超の生徒を受け入れた旧鷹巣校舎。平成7年、老朽化で現校舎にバトンタッチ。

県内有数の大規模校だった創立時

町村合併後の昭和33年、旧関係中学校が廃止になり、統合鷹巣中学校が創立されると、現在地で新校舎建設の第1期工事が始まった。

校舎建設は昭和37年までに6期にわたり行われ、完成までは、教職員はもちろん、生徒たちも整地作業などに汗を流した。

完全統合となった昭和35年には、団塊の世代の入学時期とも重なり、生徒数が157

9人、学級数33と県内でも有数の大規模校となった。

旧校舎は、平成3年の台風19号の被害などで老朽化が進み、現校舎の建設が計画される。

平成5年、新校舎の杭打ちが始まり、翌平成6年には、第1期工事が完成、同7年2月落成記念式典が行われた。

少子化時代となり、現在の生徒数は往時の4分の1ほどとなったが、スポーツでも音楽などの文化面でも、各種活動が盛んな伝統は変わらず、鷹巣の歴史を刻み続けている。

生徒数・学級数の推移（資料：学校基本調査）

区分	昭和35年	S47年	S55年
生徒数	1,579人	1,179人	939人
学級数	33	29	24
区分	H2年	H12年	H16年
生徒数	750人	493人	430人
学級数	21	16	15

（統合後の指標による）



学校の沿革

えんかく



昭和22年 国民学校制度が廃止され、6・3制発足する。鷹巣・七座・坊沢・同観音堂岱分校・綴子・栄・沢口の各中学校が小学校に併設される。

24年 旧鷹巣中学校、横町に校舎新築。

25年 沢口中学校、高森塚ノ岱に校舎新築。

26年 綴子中学校、大堤に校舎新築。

32年 少年野球全県大会で初優勝。

33年 各中学校廃止。統合鷹巣中学校創立。校章、校歌制定。

34年 新校舎入校式（旧鷹巣、坊沢、七座、緑ヶ丘校舎廃止）。

35年 完全統合（綴子、栄、沢口校舎廃止）。

37年 第6期工事（特別教室2期分）完了。

38年 野球場、運動公園完了。

39年 全県少年野球大会で2回目の優勝。

40年 プール完成。

41年 陸上競技場完成。

43年 友愛の塔完成。集団宿泊訓練所設置。

44年 北部学校給食センター完成。

48年 町立武道館設置。

49年 全国中学校バレー大会で3位。

55年 全天候型陸上競技場が完成。

58年 東北中学野球大会で優勝。

59年 第2体育館完成。

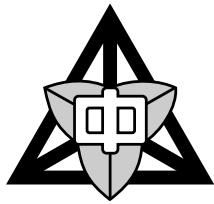
63年 創立30周年記念式典。

平成2年 全県中学スキー大会女子総合8連勝。

6年 新校舎第1期工事完成、旧校舎教室棟解体。特別教室棟改築。

7年 全県駅伝大会女子5連勝。

10年 創立40周年記念式典。



鷹巣町立

鷹巣南中学校

- 学校創立昭和22年（統合昭和35年）
- 生徒数173人 学級数8
- 〔所在地〕
- 鷹巣町脇神字塚の岱165番地1



▲昭和35年に発足した（実質統合）鷹巣南中学校は、七日市中の創立から今年で58年目を迎える。



◀旧鷹巣南中学校



▲旧南中学校の校舎は、七日市中学校時代を経て昭和61年に廃校となった。竜森中の廃校は同41年。

七日市、沢口、竜森の3校が統合

昭和35年2月、沢口地区、七日市地区の代表と教育委員会が協議し、同年4月、旧七日市中学校と沢口中学校の一部が統合、鷹巣南中学校として誕生した。

昭和41年には竜森中学校と名目統合、42年、特別教室を増築、実質統合を実現した。実質統合後の生徒数は462名12学級で、最も規模が大きかった頃だった。

校舎は七日市産の杉を使用して昭和24年に建設された木

造校舎で、戦前の趣もあり、昭和59年には、学校をロケ地に映画「みちのく子ども風土記」が撮影されている（未完成）。

その校舎も老朽のため、昭和61年、七日市から現在地に移転、新築された。

また、昭和42年には前年の竜森中の統合により寄宿舎「竜森寮」が設置された。現在、通年制の寄宿舎は、県内仅此だけである。

生徒数・学級数の推移（資料：学校基本調査）

区分	S35年	S47年	S55年
生徒数	408人	311人	140人
学級数	10	10	5
区分	H2年	H12年	H16年
生徒数	276人	205人	173人
学級数	10	8	8

昭和35年には、竜森中を含む



学校の沿革



昭和22年 国民学校制度が廃止され、6・3制発足する。七日市中学校が七日市小学校に、七日市中学校竜森分校が竜森小学校（鳥越校舎）に、沢口中学校が沢口小学校に併設される。

24年 七日市中学校独立校舎新築。

25年 沢口中学校独立校舎新築。

30年 竜森分校独立。

31年 鷹巣町立七日市中学校と改称。

33年 学校統合により沢口中学校が鷹巣中学校沢口校舎に（名目統合）。

35年 七日市中学校と鷹巣中学校沢口校舎の一部が統合し、鷹巣南中学校が発足。

38年 校舎増築、校歌、校旗制定。

41年 竜森中学校が統合。

42年 校舎増築、寄宿舎新築。実質統合及び創立20周年記念式典。

49年 吉野分校教室開設。

52年 吉野分校教室、比内養護吉野分校となる。

59年 映画「みちのく子ども風土記」、南中校舎を中心に撮影（映画は未完成）。

60年 学区再編成（小猿部地区）。

61年 校舎を七日市から現在地に移転、新築。竜森寮移転。

62年 陸上競技場完成。創立40周年記念式典。記念事業として中庭を整備。

平成2年 3階教室1棟増築。

4年 柔剣道場増築。

9年 創立50周年記念式典。記念碑序幕。「縄文の森」序幕。

11年

映画館・民映
(旧米代町通り 昭和30年代)



すもう大会(坊沢 昭和40年代)



季節保育所(松沢 昭和41年)

炭焼きのお手伝い
(七日市 昭和30年代)



かさの修理(昭和40年代)



「思い出の光景」
△表紙・裏表紙△
(昭和30年代
～40年代)

授業風景(竜森小 昭和30年代)



馬に引かれる大太鼓(綴子 昭和40年代)



「広報たかのす」閉町記念特集号(第1030号)

<発行日:平成17年3月16日>

鷹巣町役場総務課広報広聴係

秋田県北秋田郡鷹巣町花園町19番1号

0186-62-1111 FAX0186-63-2586



渡し舟での通学
(小ヶ田 昭和30年代)



田植え(昭和40年代)



陸橋完成前の奥羽線踏切
(昭和30年代)

